

ササ草原

Sasa grassland

<相産> ササの優占する草原。

<生育地> ブナ林, ミズナラ林, カラマツ林の伐採跡地や山火事跡地に分布する。積雪量が少なく強風が吹きぬける山頂部や後線部では森林の復元が妨げられ, 半自然草原として長い間持続群落が形成される。自然草原としては日当りのよい凹状斜面の湿性地に分布している。硫黄孔の周辺や低山の採草地にもみられる。

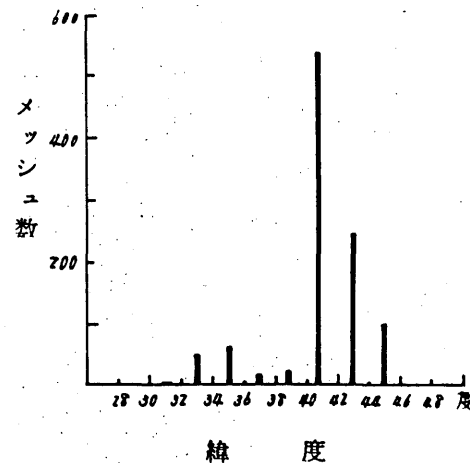
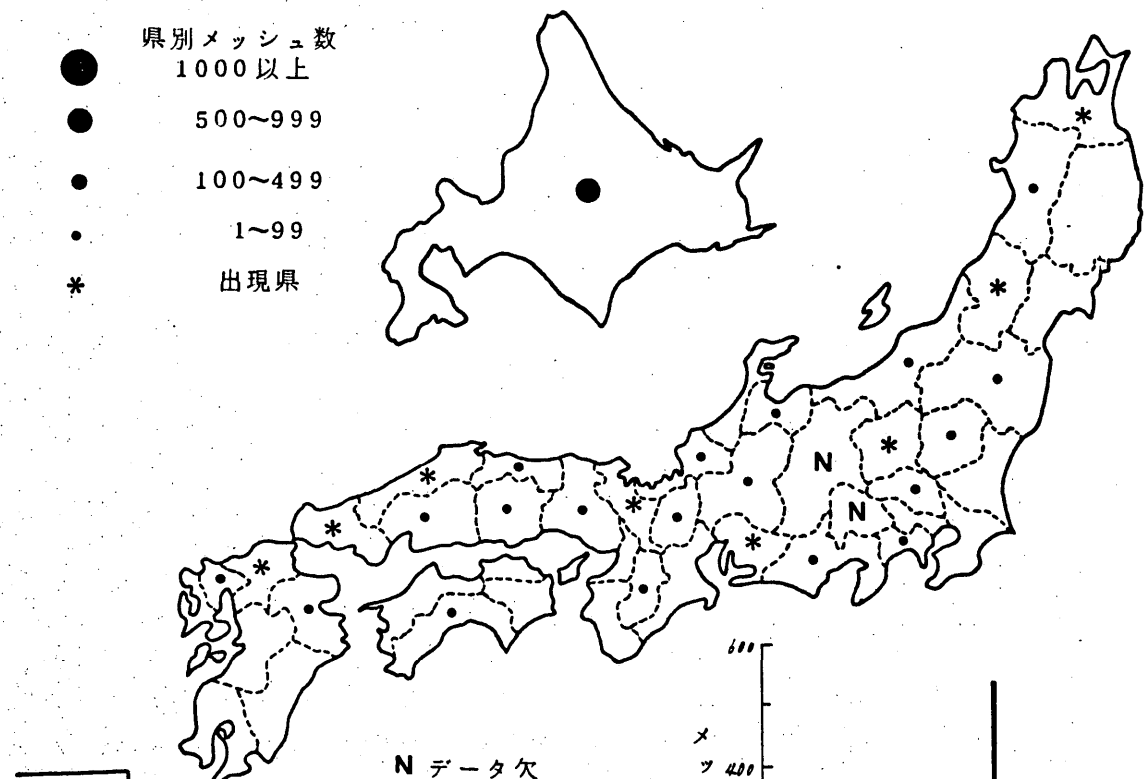
<種組成> 太平洋側には北海道のエゾミヤコササ, 本州以南のミヤコササなどの落葉地表植物性ササが優占している(ミヤコササ群落)。積雪深50cm以上の裏日本側多雪地帯にはチシマササ, クマイササ, チマキササなどの常緑低木性ササが優占している(チシマササ-クマイササ群落)。その他神奈川県箱根周辺にはハコネタケ, 北海道小枝付近をはじめとする太平洋側にはススタケの優占する群落(ハコネタケ群落, ススタケ群落)がみられる。ササの採が盛になると下層植生はきわめて貧弱となり, ススキ, ナワシロイタダ, アキノキリンソウ, フラビ, シラヤマギクなどススキ草原と共通する好陽性草本植物が点在するほか, アカマフ, リョウグ, アセビなど周辺の森林を構成する樹木が少被度で生育している。上述した群落のほか, 箱根のトクガササ, 伊豆のアマギササ, 鈴鹿, 伊吹山のイブキササ, 中国山地のケウコクササなど各地に多種のササの優占する群落がみられ, これらはササ草原として一括されている。

<群落の特徴> ブナクラス域の伐採跡地, 火入地, 採草地などにみられるササの優占する草原である。山頂部や後線部の風衝地では半自然草原として持続している。

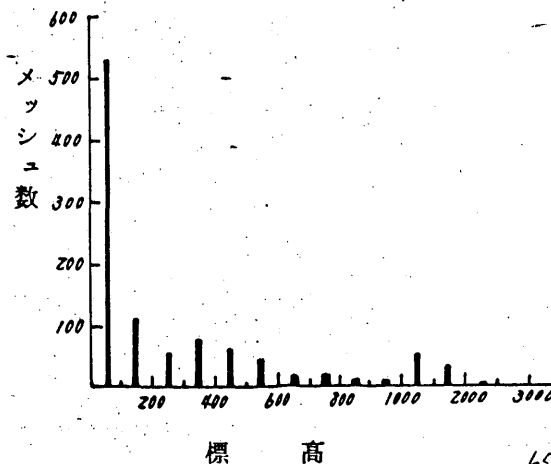
<分布> ブナクラス域の山頂部や後線部を中心に点在している。太平洋側にはミヤコササ群落, ススタケ群落, ハコネタケ群落, 日本海側にはチシマササ-クマイササ群落などが分布している。

\*50900 ササ草原

- 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県

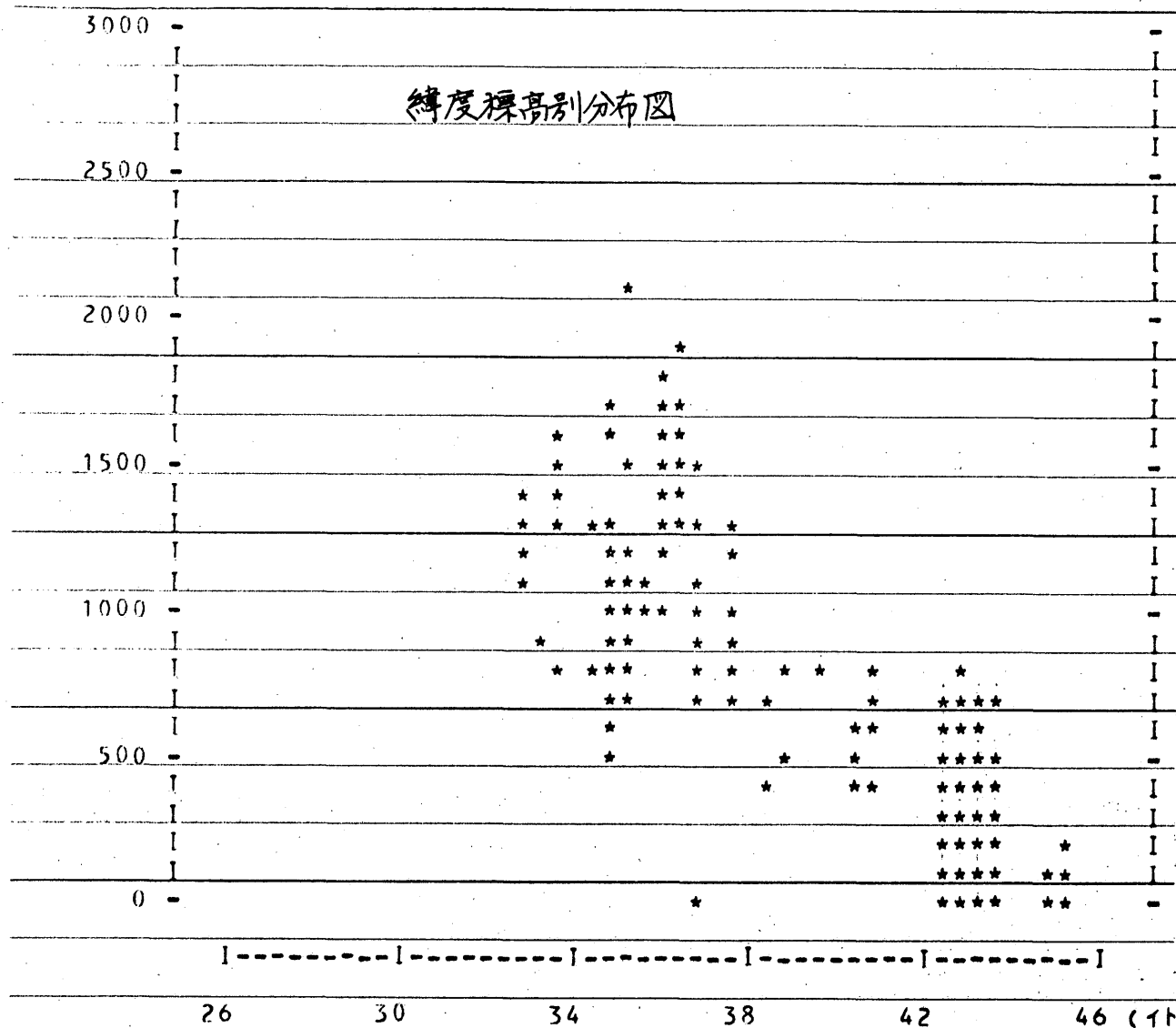


コード	群 落 名	メッシュ数	出 現 県
50900A	ササ草原	755	北海道*青森, 福島, 群馬, 新潟, 富山, 福井, 岐阜, 静岡, 愛知, 滋賀, 京都, 奈良, 鳥取, 島根, 岡山, 石島, 山口, 高知, 大分
50901B	ミヤコササ群落	34	北海道, 栃木, 埼玉, 福岡, 佐賀
50902C	チシマササ-クマイササ群落	249	北海道, 秋田, 山形, 栃木, 兵庫, 島根, 福岡
50903D	ハコネタケ群落	3	神奈川県
50900E	ススタケ群落	0	北海道
	計	1041	

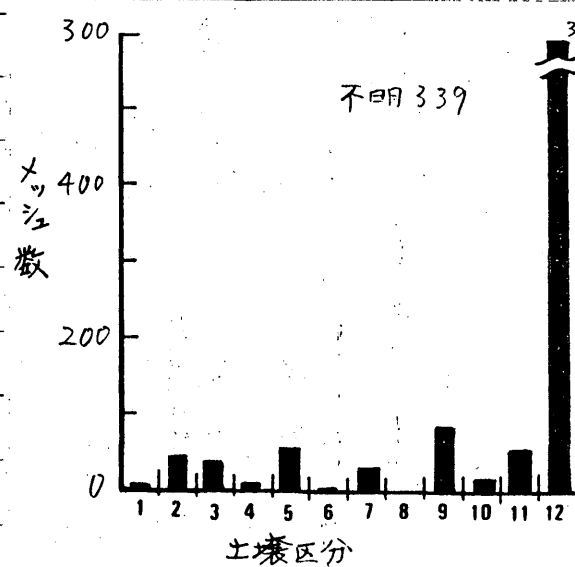


\* 1県で2群落以上出現する場合, メッシュ数のもとより群落

緯度標高別分布図

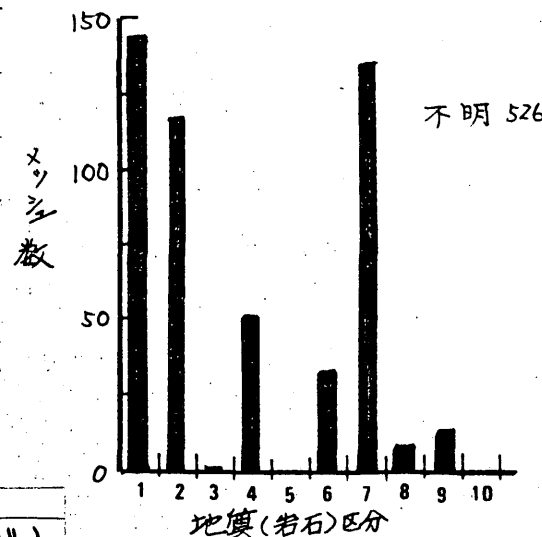


土壌区分別頻度図



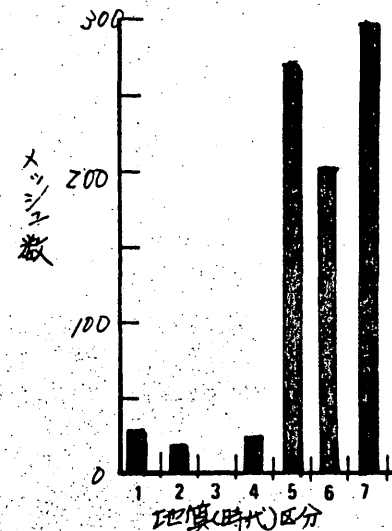
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他
- (凡例改訂が行われ  
たところ、北海道の  
4, 5, 6を合して  
考えられる)

地質(岩石)区分別頻度図



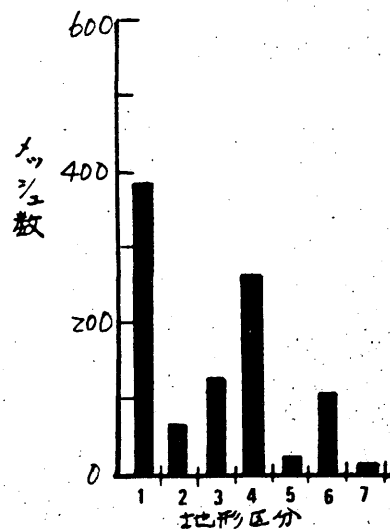
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

ススキ群団

Miscanthion sinensis

<相観> 落葉性の高草イネ科草原。

<生育地> 山地部のマツ林、スナラ林、カラマツ林、シラカンバ林、毛ミ林の伐採跡地、採草地、火入地などにみられる。山頂部や稜線部の風衝の強いところでは半自然草原として持続群団を形成している。平野部にも河川敷、放棄後数年に及ぶ休耕地、造成地などに小面積で分布している。一般に数年ごとに伐取、火入が行われることにより持続している。

<種組成> ススキが優占し、その他、カリヤスモドキ、トダシバ、ノカリヤス、オオアラススキなど多くの高草イネ科植物が混生している。オミナエヒ、アキノキリンソウ、シラヤマギク、マルバハギ、オトコヨモギなども広範に生育している。放棄地など人為的影響の強い立地にはヨモギ、イタドリ、トクサミなどがみられ、湿原の乾いたところではウカレタマなどが生育し、立地条件によって種組成は複雑である。ススキ草原成立後数年経過した群団では、レンゲツツジ、ナフシロイケゴ、アカマツ、コナラ、タニウツギ(日本海側)、ノリウツギ(九州)などの好陽性の低木、高木が侵入し、さらに周辺のブナ-スナラ林の林床に生育する耐陰性植物が侵入した群団もみられる。

<群団の特徴> 森林、植林伐採後数年の跡地や、採草地、火入地などみられるススキの優占する草原である。日本の代表的な二次草原である。

<分布> 東北地方、中国地方の準平原状のなだらかな地形や、九州地方の溶岩台地、火山性丘陵地には広く分布している。

<その他> 第二次大戦直後までは、ススキは牛馬の飼育、堆肥のほかにかやぶき屋根用とか炭俵用など、山村農家にとっての用途は広く、ススキ草原は部団周辺の緩斜面に広い面積を占めていた。近年は植林地化、人工草地化がすすんでいる。

\*51000 ススキ群団

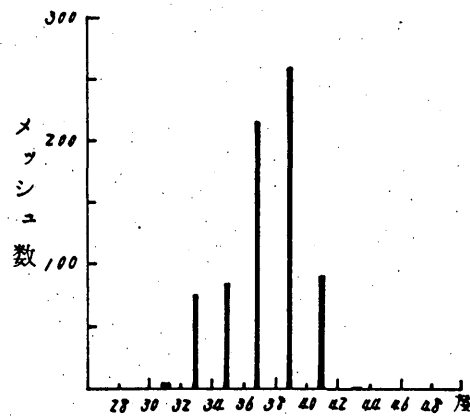
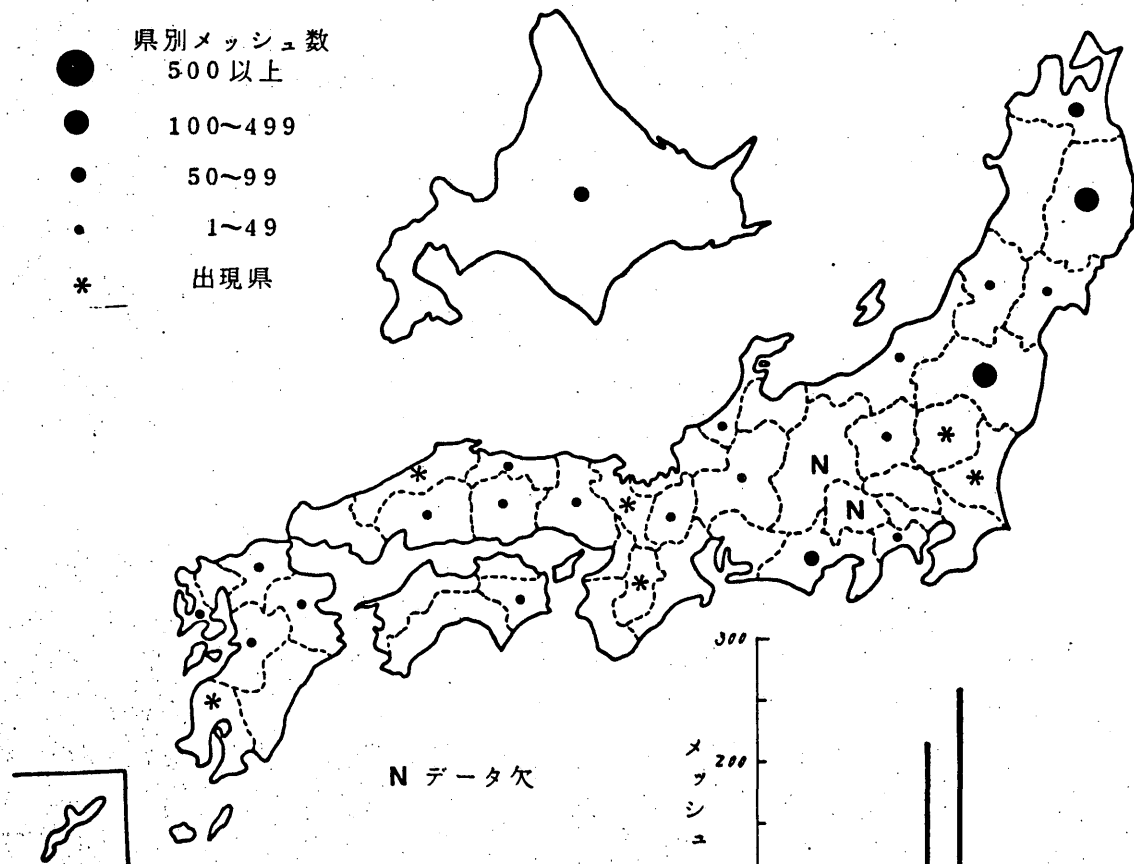
● 県別メッシュ数  
500以上

● 100~499

● 50~99

● 1~49

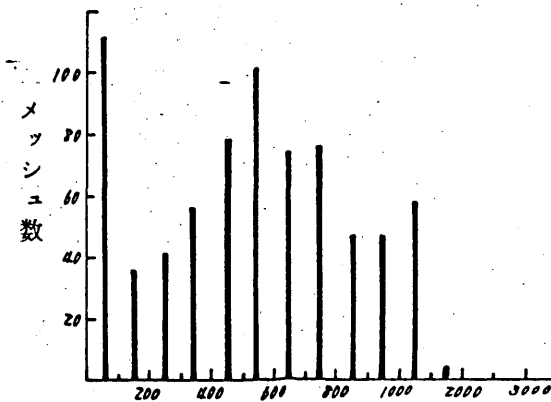
\* 出現県



緯度

コード	群落名	メッシュ数	出現県
51000A	ススキ群団	615	青森, 岩手, 宮城, 福島, 茨城, 栃木, 群馬, 新潟, 石川, 岐阜, 静岡, 滋賀, 京都, 岡山, 広島, 徳島, 福岡, 熊本
51000B	ススキ草原	139	北海道, 鳥取, 島根
51000C	ススキ群落	2	山形
51001D	ススキ-イソヤマギク群落	0	北海道
51002E	カラマツツバ-ススキ群落	8	神奈川県
51003F	ススキ-ホクザサ群落	9	奈良, 兵庫
51005G	ススキ-ヤマキリシマ群落	5	大分
51000H	ススキ-キオン群落	2	長崎
	計	780	

\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより群落



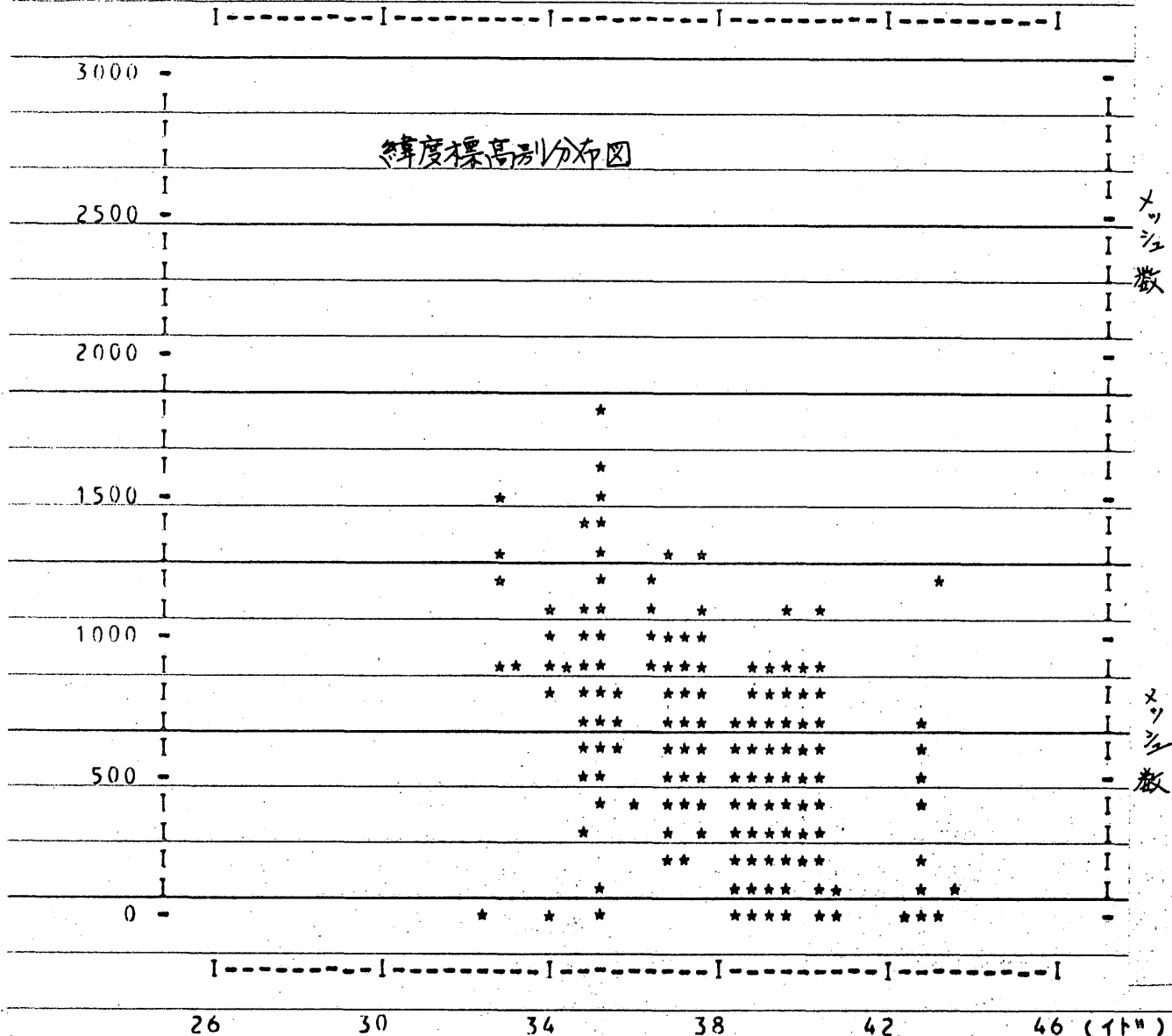
標高

(七ヨウカ)

# ススキ群団

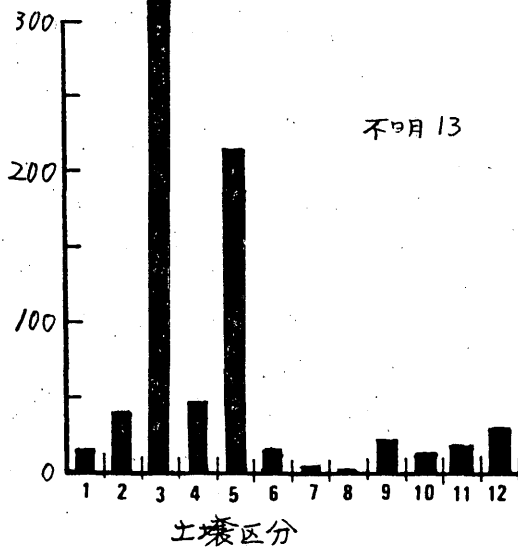
( \*51000 )

### 緯度標高別分布図



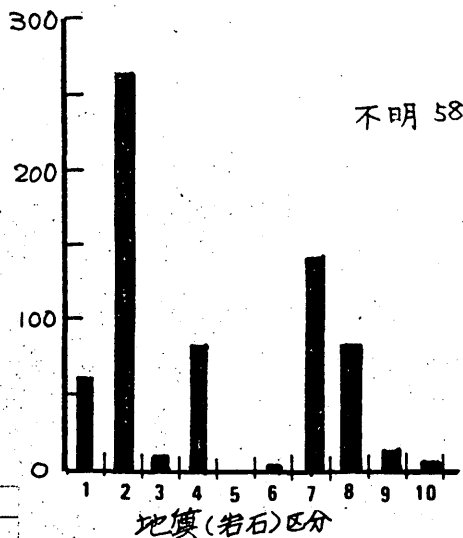
メッシュ数

### 土壌区分別頻度図



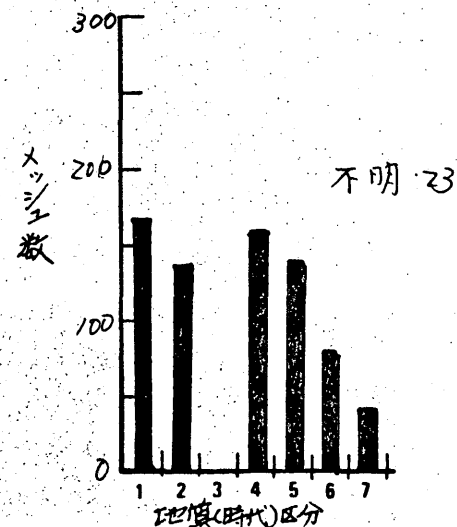
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

### 地質(岩石)区分別頻度図



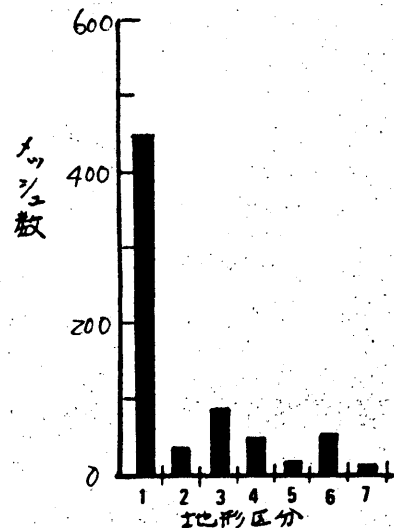
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (凝灰岩、凝灰岩、流紋岩)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲

伐跡群落

Plant communities in clear-cut area

<相観> 落葉広葉樹の低木林および草原。低木林は密生して叢状を呈する。

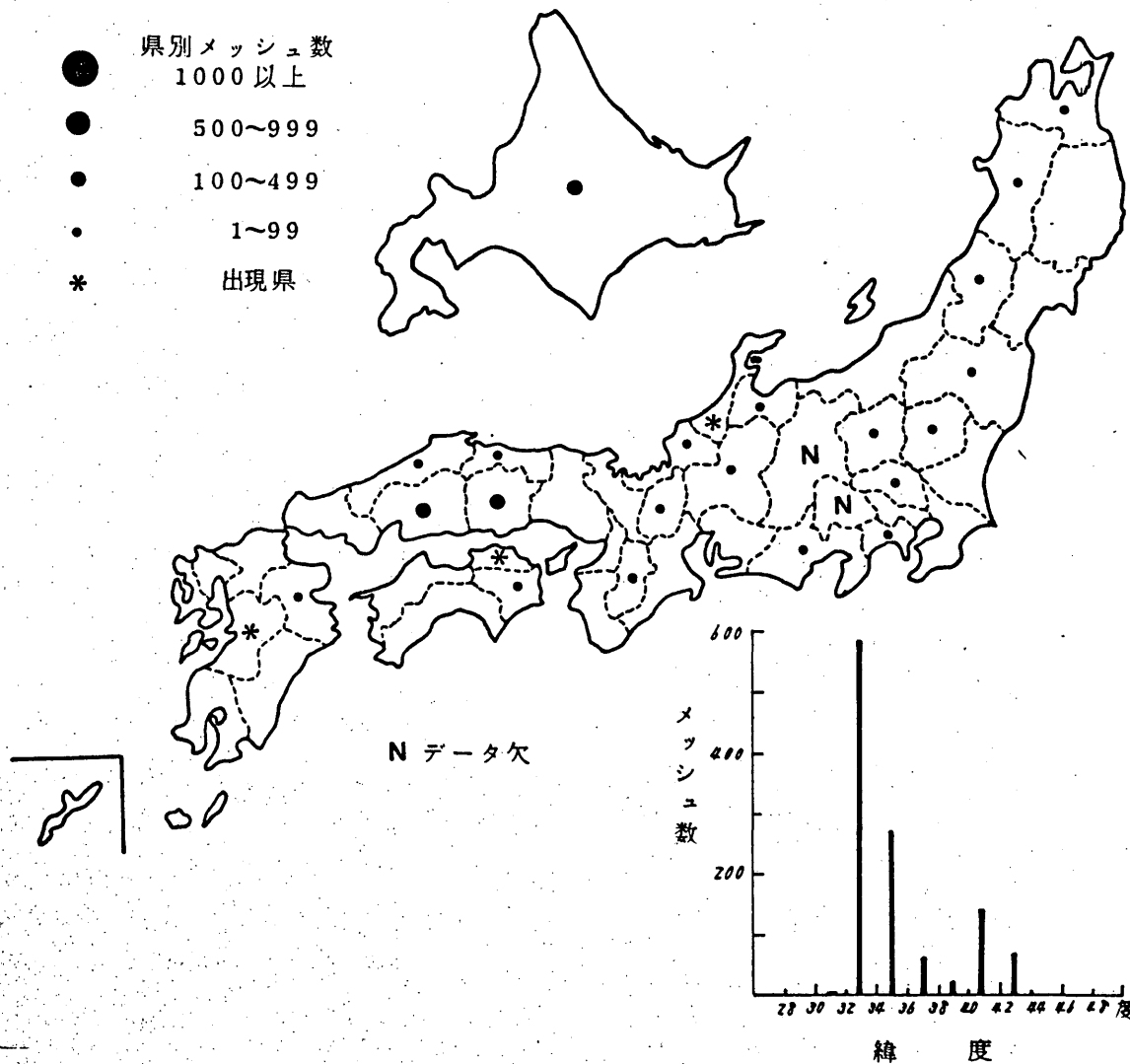
<生育地> ブナクラス域の森林の伐跡跡地にみられる。伐跡直後は著しく富養になるが、数年後には表土が流れて乾性、貧養になる。

<種組成> 伐跡跡地に形成される草原、低木林は、伐跡後の経過年数や立地の環境条件により種組成はさまざまである。伐跡直後には、ブナクラス域下部ではベニバナノロギク、ダントノロギク、ヒメムカシトモギ、アメリカセンダングサなどのキク科植物が、ヤブツバキクラス域から続いて優占する。ブナクラス域中部ではヤクレンソウ、タケニグサ、オトコエシ、ヒヨドリバナ、カラハシ、コウゾリナなどの1~多年生草本植物が混生し、さらに上部ではヤナギランが優占することがある。これらの草原は伐跡後数年を経過するとクマイチゴ、モミジイチゴ(ナガバモミジイチゴ)、フロイチゴ、アワビロイチゴなどのキイチゴ属植物や、トラノキ、ノイバラなどの有刺植物が優占する低木林に交替する。一般に、この低木林にはヌルデ、ヤマウルシ、コゴメウツギ、ソリウツギ、ニレウツギなどの好陽性の低木、亜高木も多く混生している。この地、やや湿性の崩壊性立地には、ヤマアジサイ、タマアジサイ、コアカソ、ニワトコなどの優占する低木林が形成される。立地の安定化とともに、これらの低木林の中に伐跡以前に成立していた森林の構成種が芽生え、充分長い時間がたつと森林に復元していく。

<群落の特徴> ブナクラス域の森林の伐跡跡地にみられる低木林または草原である。伐跡後の経過年数や伐跡以前に成立していた森林、立地の地形、土壌条件など、環境条件の差異に応じてさまざまな種組成、群落構造の植生が生育している。

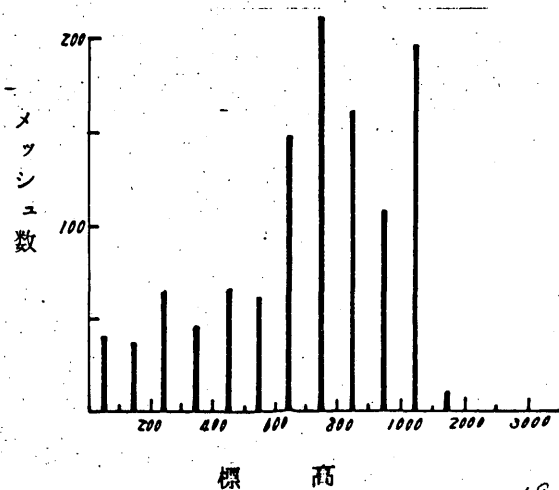
\*51400 伐跡群落

- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県

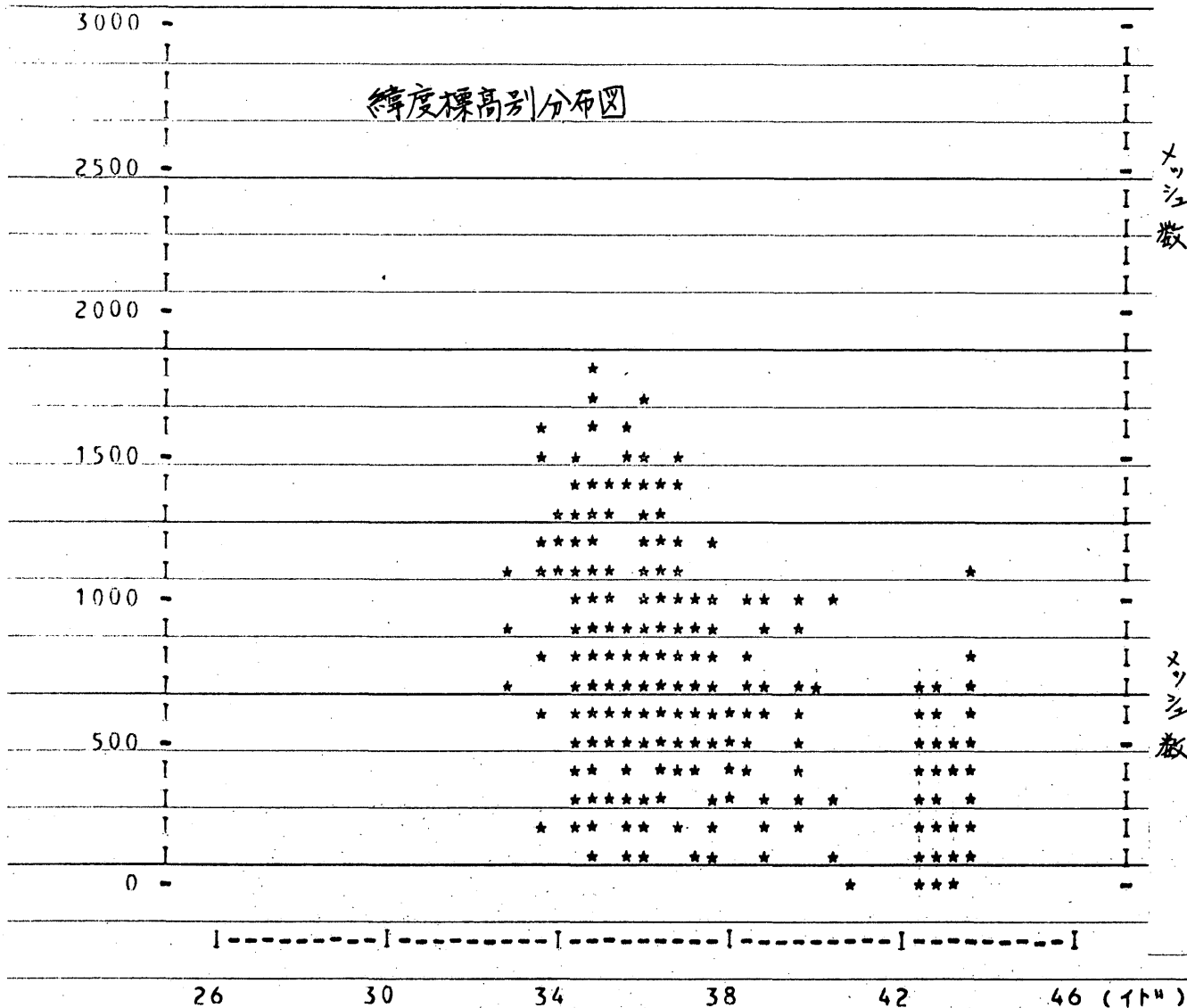


コード	群落名	メッシュ数	出現県
51400A	伐跡群落	603	北海道、秋田、山形、福島、栃木、群馬、埼玉、神奈川、石川、岐阜、静岡、滋賀、奈良、鳥取、島根、香川、熊本、大分
51402B	トラノキ-クマイチゴ群落	448	北海道、青森、岡山、石島、徳島
51400C	伐跡跡地に成立した二次林	16	北海道
51400D	伐跡跡群落	31	富山、福井
	計	1098	

\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより各群落

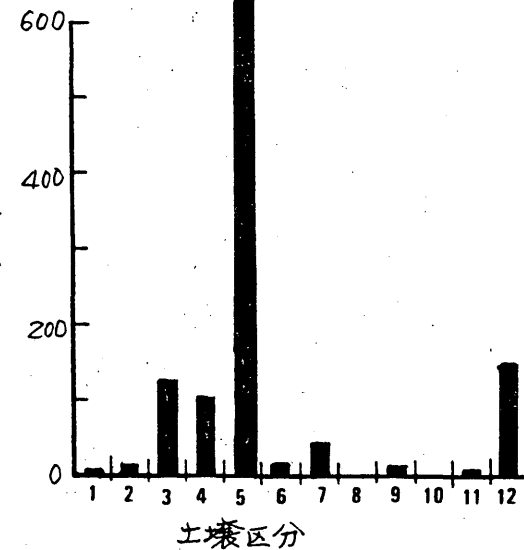


緯度標高別分布図



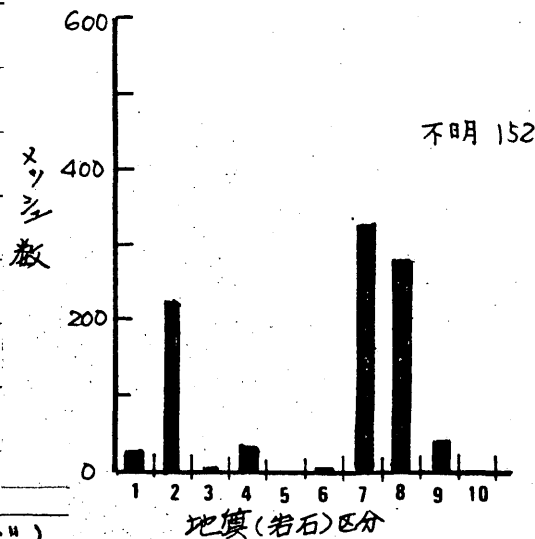
メッシュ数

土壌区分別頻度図



- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

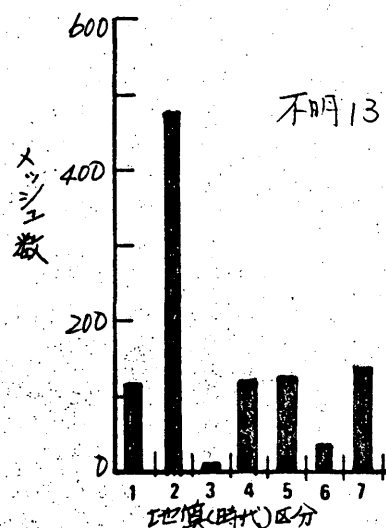
地質(岩石)区分別頻度図



- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

不明 152

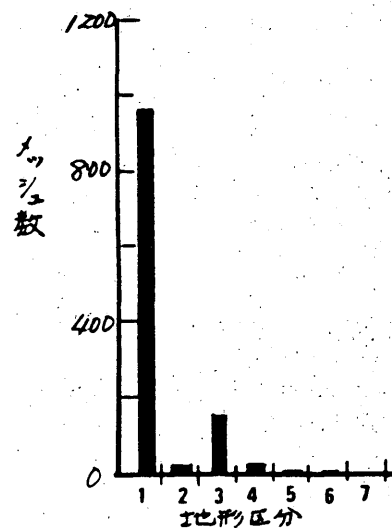
地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

不明 131

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

〈相観〉常緑針葉樹の高木林。

〈生育地〉ヤブツバキクラス域上部から、ブナクラス域下部にかけてのいわゆる中間温帯とよばれる地域に生育する。かつてはこの地域に気候的極相林として広く成立していたものと考えられるが、現在では急傾斜地や土壌のうすいやや乾性な立地に多く生育している。

〈種組成〉高木層の優占種はモミで、ところによつてはアカガシ、ウラジロガシ、ツクバネガシなどのカシ類や常緑針葉樹のツガなどが混生する。高木層には他にアカシデ、イヌシデ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ、ヤマザクラなどのブナクラスの種も生育しその割合は北へいくほど多くなる傾向にある。亜高木層にはヤブツバキ、サカキ、シキミ、ヒサカキなどが全国的によくみられる。低木層には九州ではハイノキが特徴的でミヤマシキミ、ヤブムラサキ、ムラサキシキブ、アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキなどが全国的によくみられる。草本層にはヤブコウジ、ベニシダ、ジヤノヒゲなどのヤブツバキクラスの常緑植物が生育している。

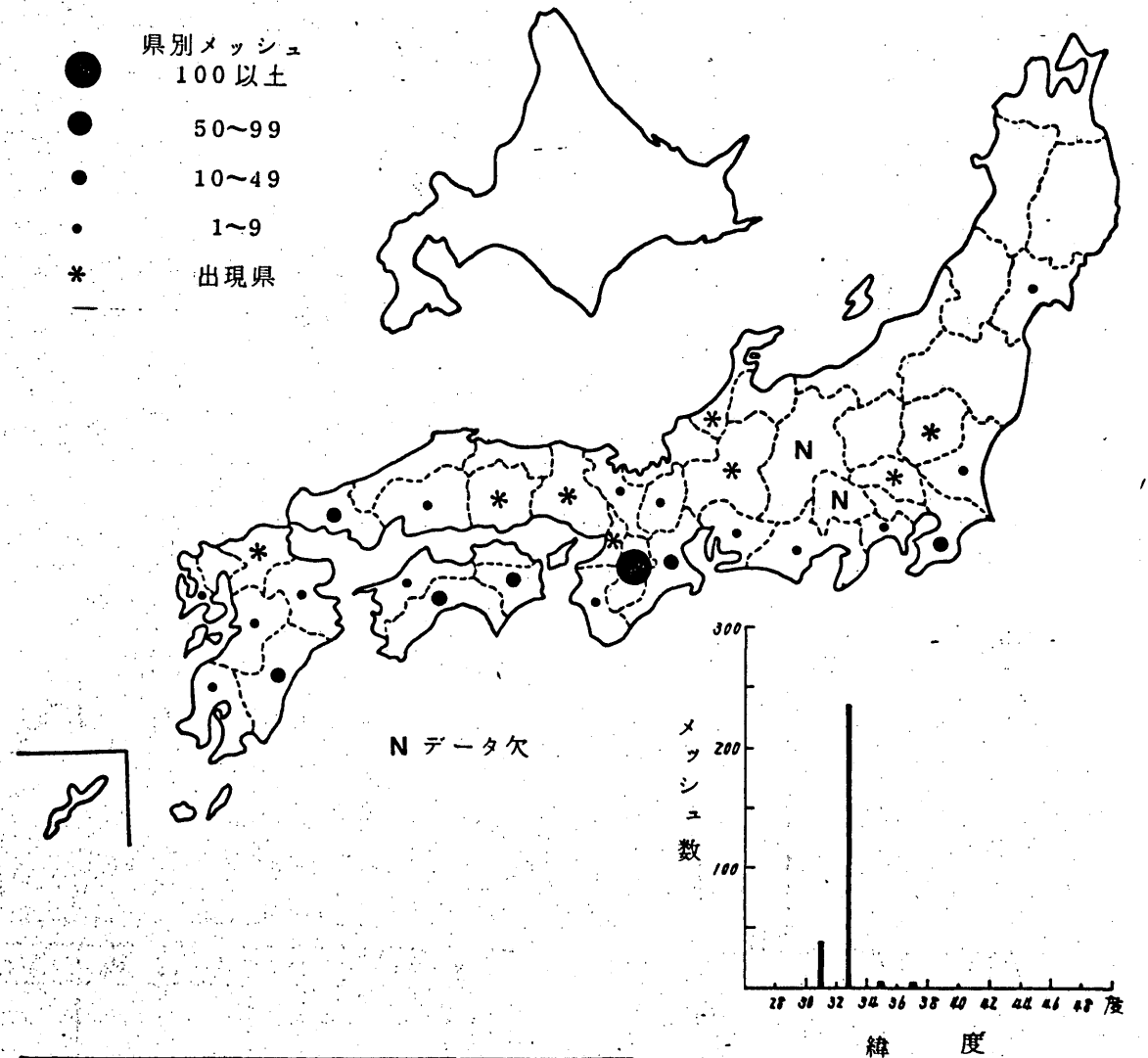
〈群落の特徴〉モミ、シキミ、ミヤマシキミ、カヤ、イヌガヤなどが多くの県で標徴種および区分種としてあげられている。日本の南部では常緑広葉樹との混交林として認められる場合が多く、北部では落葉広葉樹との混交林となる傾向があり、東北地方ではモミーイヌブナ林として認められる。残存林分が急傾斜地や尾根筋に多いことから、ツガ、ヒノキ、トガサクラ、コウヤマキなどと伴う土地的極相林の様相を呈することが多い。

〈分布〉日本の太平洋側の地域を中心に分布がみられる。

IV. ヤブツバキクラス域代償植生

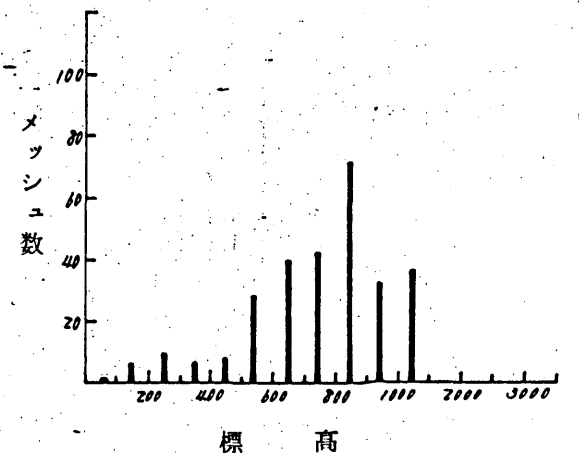
\*60100 モミーシキミ群集

- 県別メッシュ 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
60100A	モミーシキミ群集	257	宮城、茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川、石川、岐阜、静岡、兵庫、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、山口、徳島、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
60100B	シキミ-モミ群集	12	岡山、広島、愛媛
60100C	スギ群落	29	高知*
60100D	モミ群落	-	
	計	298	

\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のわたり方、群落

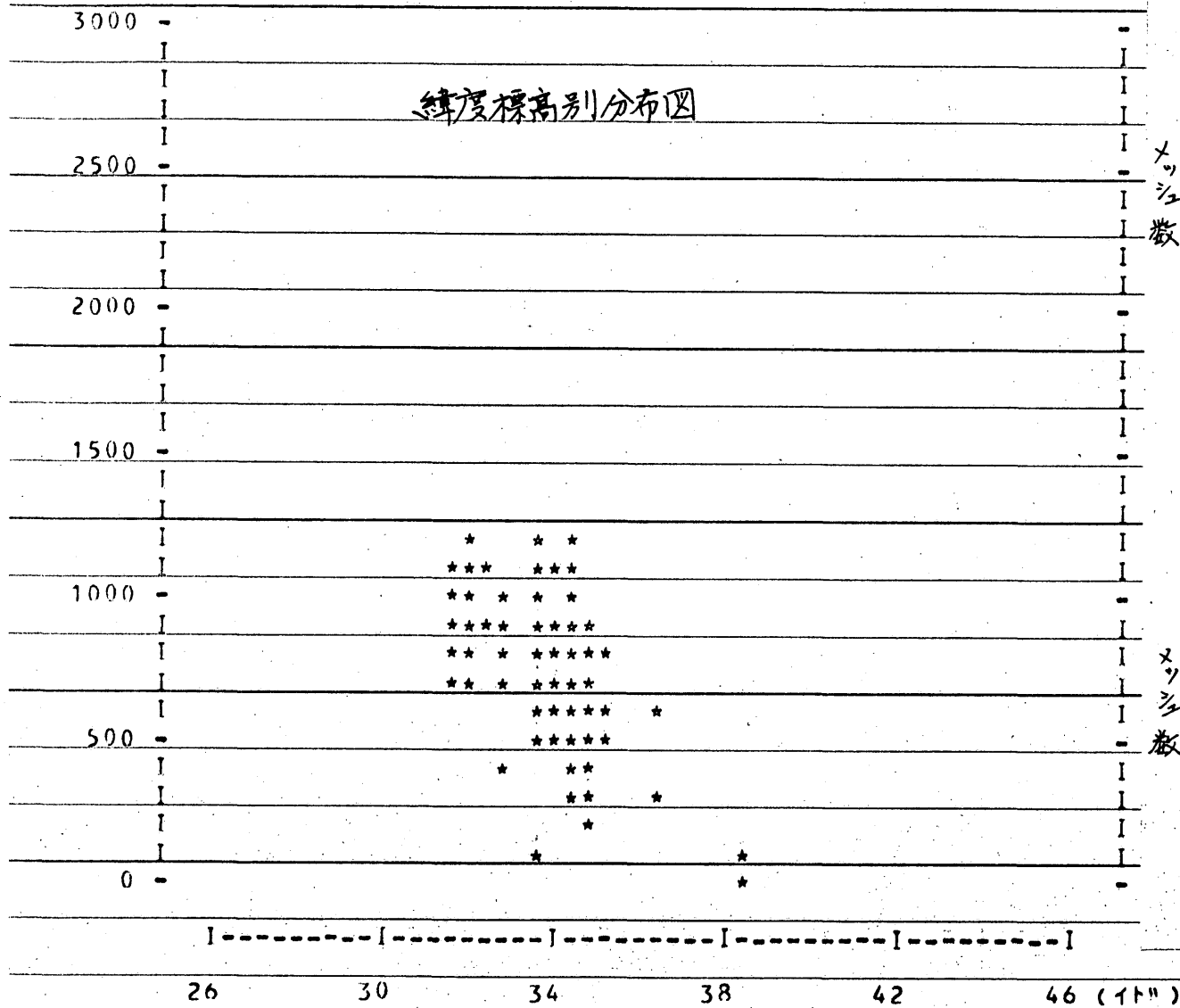


(ヒヨウコウ)

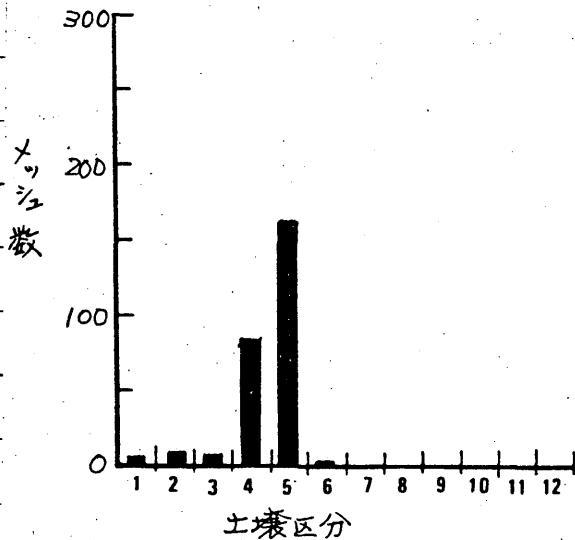
# モミ-シキミ群集

( \*60100 )

-----|-----|-----|-----|-----|

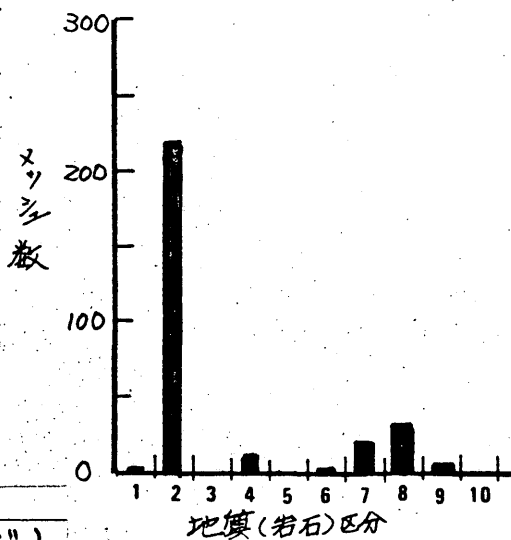


### 緯度標高別分布図



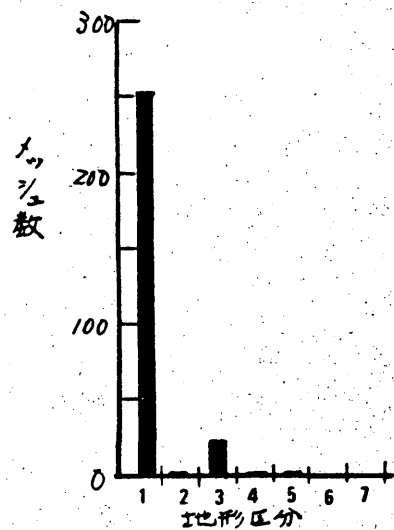
### 土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



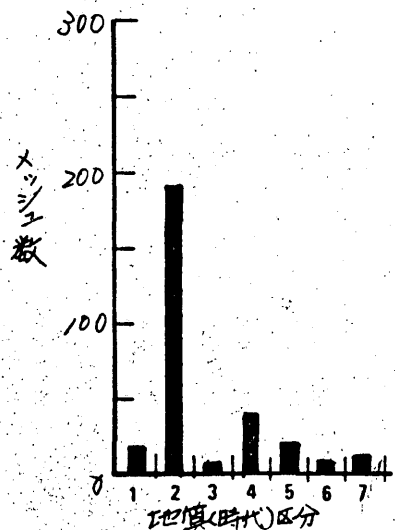
### 地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



### 地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



### 地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他



ツガ-ハイノキ群集 *Symploco-Tsugetum*

<相観> 常緑針葉樹の高木林

<生育地> ヤブツバキクラス域からブナクラス域にかけての尾根筋、急傾斜地、岩角地などの湿潤で乾性な土壌上に多くみられる。

<種組成> 高木層にはツガが優占し、ところによってはアカサ、モ、ヒメコマツ、ヒキなどが混生する。高木層には他にヒメシャ、ウラジロガシ、ツクバネガシなどの常緑樹が生育し、高海拔地では落葉高木も混生する。亜高木層にはアセビ、ソヨゴ、ウラジロガシ、ツクバネガシ、サカキなどがみられ、低木層にはハイノキが特徴的で、ヒサカキ、ヤブツバキ、などの他 ツツジ類が多く生育する。草本層は貧弱なことが多い。

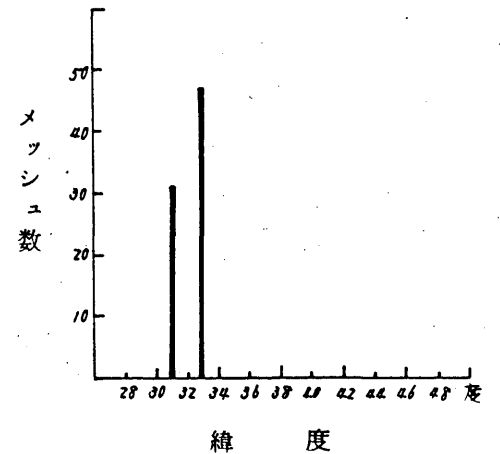
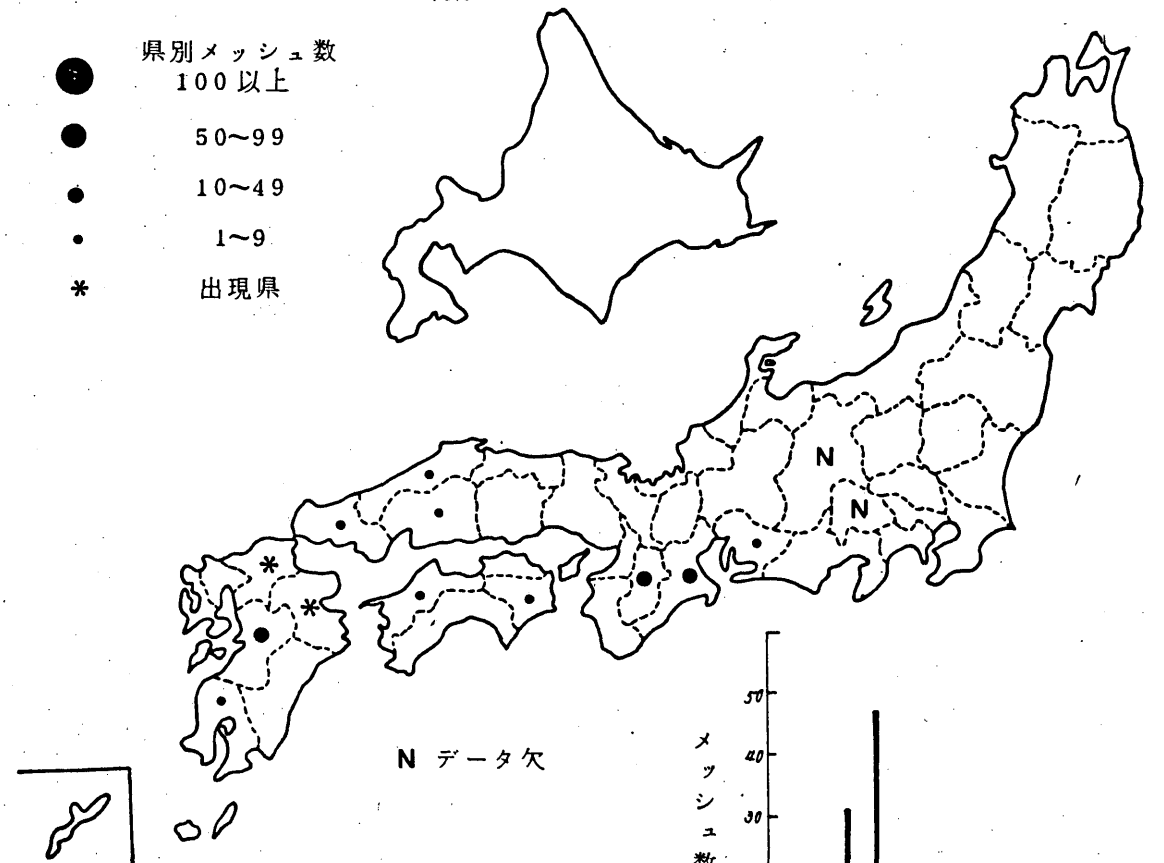
<群落の特徴> ヤブツバキクラス域からブナクラス域にかけてのいわゆる中間温帯に生育する常緑針葉樹林で、多くは土地の極相林として小面積で散在している。

<分布> 東日本の太平洋岸を中心に分布し、九州地方、中国地方に多くみられる。

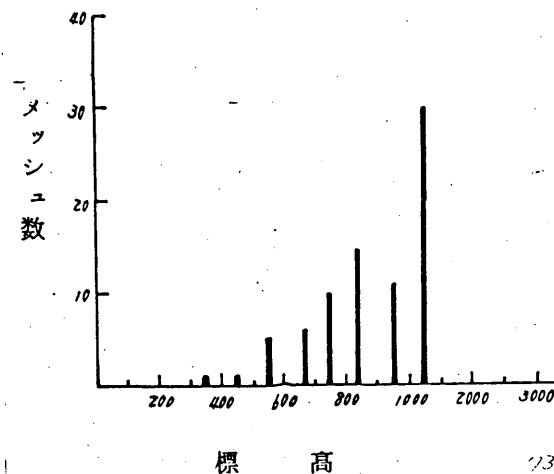
<その他> 植物社会学上のツガ林の所属に関しては、多くの見解にわかれている。これはツガがヤブツバキクラス域からブナクラス域にわたって広く分布し、しばしばモ、カ類、ブナなどと混生し、多様な性格を有していることによる。ヤブツバキクラス、ブナクラスのいずれに所属させるかは、両クラスの標榜種群の数量的な関係より、機械的処理は可能であるが、この処置には、推移帯独自の性格が消えるとして懸念するものもある(山中, 1979)。本報ではブナクラス域のツガ林をツガ-コナスゲ群集とし、ヤブツバキクラス域のツガ林をツガ-ハイノキ群集にまとめた。高知のツガ-トガサケ群集、島根のツガ-コナスゲ群集、愛媛のツガ-ゲツガ群集はヤブツバキクラス域という観点からここに含めた。ツガ林、ヒキ林、ツリヤマキ林など急傾斜地に発達する針葉樹林を一括して本群集とし、モヒツガの混交林は、シキモシ群集に、ウラジロガシとツガの混交林はウラジロガシ優占林分に限り、サカキ-ウラジロガシ群集とした(本島)という処置も示されているが、同様の処置が各県でとられているものと考えられる。

\*60202 ツガ-ハイノキ群集

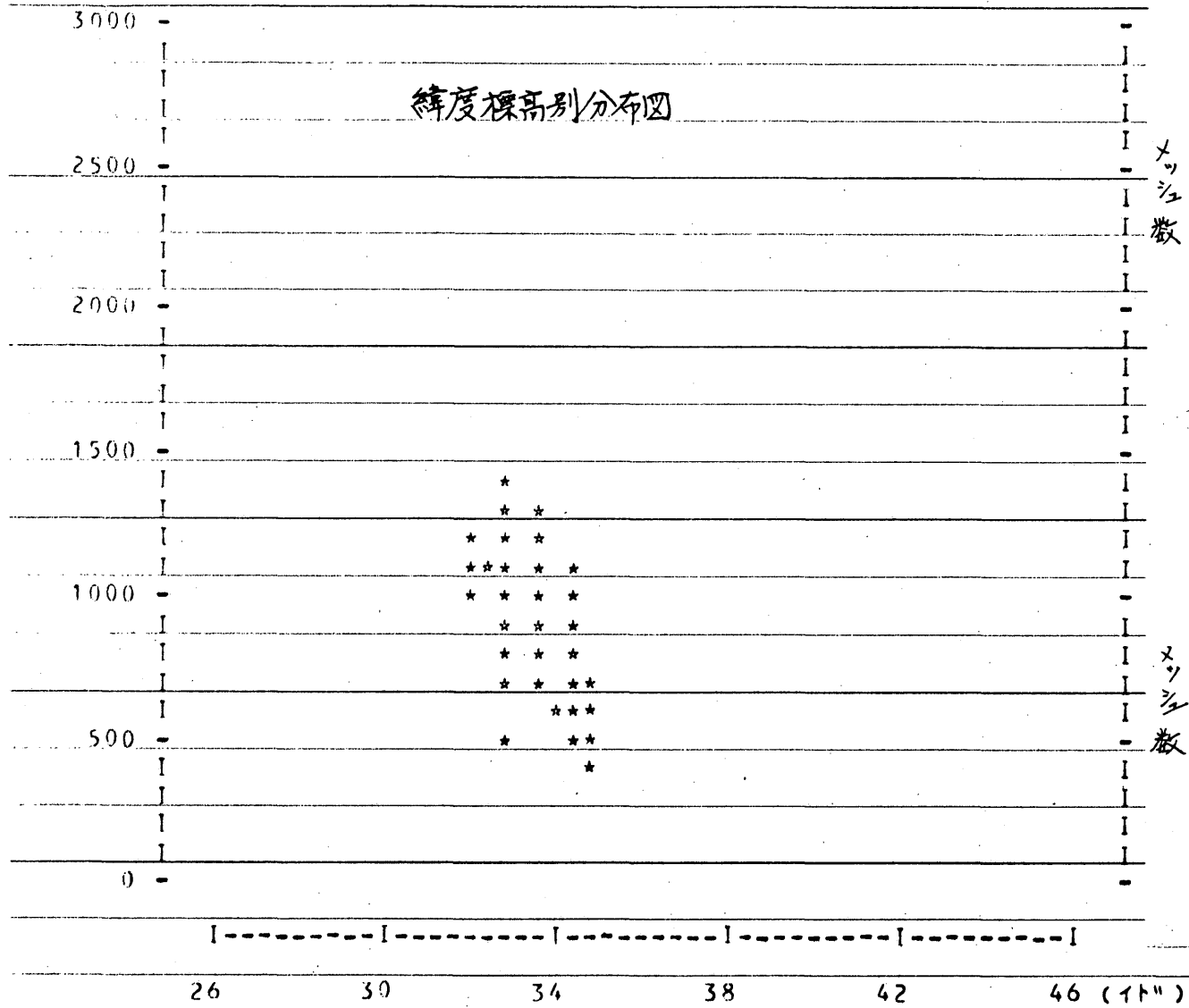
- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



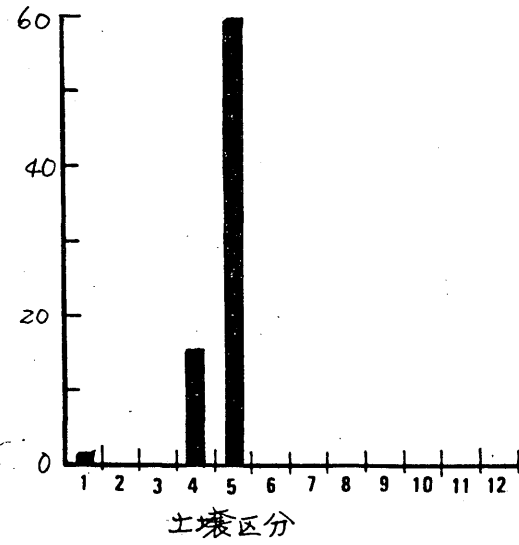
コード	群落名	メッシュ数	出現県
60202A	ツガ-ハイノキ群集	71	愛知, 三重, 奈良, 山口, 徳島, 熊本, 大分, 鹿児島
60202B	ハイノキ-ツガ群落	1	広島
60202C	ツガ-トガサケ群落	0	福岡
60202D	ツガ-コナスゲ群集	2	島根
60202E	コナスゲ-ツガ群集	8	愛媛
	計	82	



緯度標高別分布図

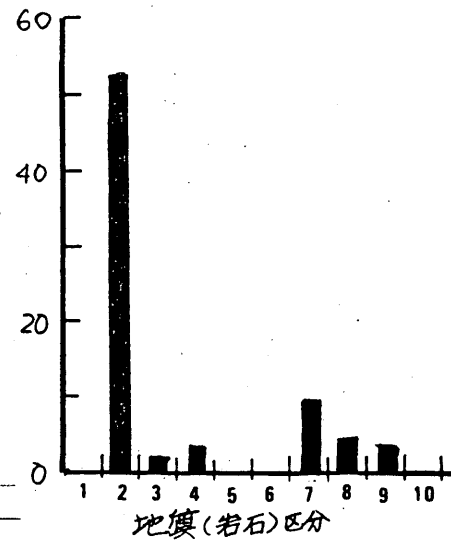


土壌区分別頻度図



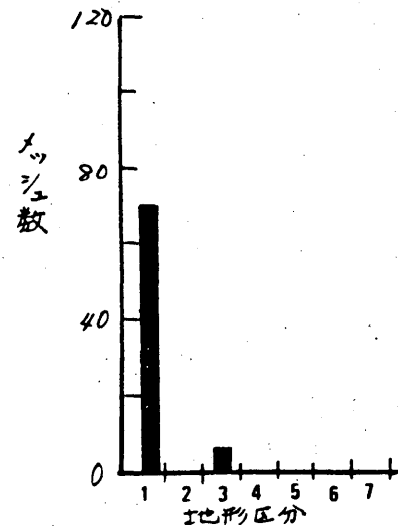
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



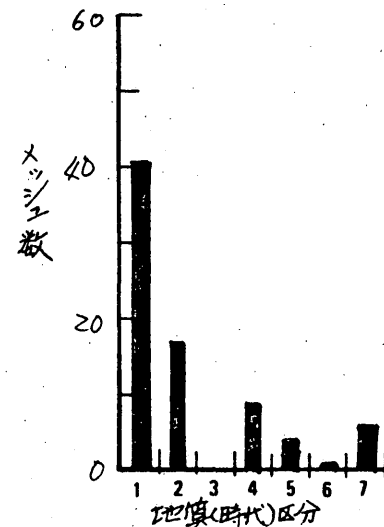
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

サカキ-ウラジロガシ群集 Sakaki-to-Cyclobalanopsietum

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 ヤブツバキクラス域の内陸部に生育する。沢筋から尾根や山腹の岩角地まで成立がみられ、土地の適応域は広いものと考えられるが、急傾斜地や岩角地など乾性で土壌の薄いところによく見出される。

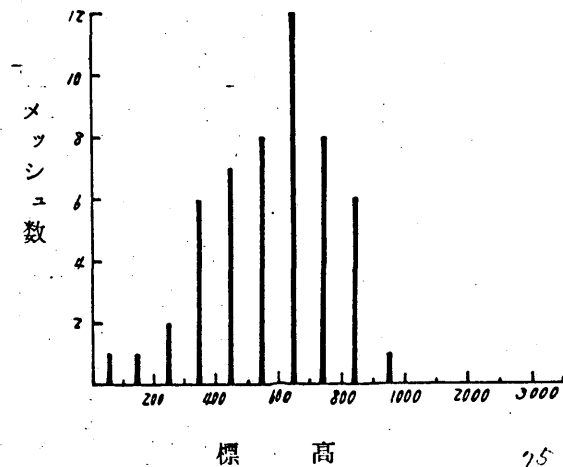
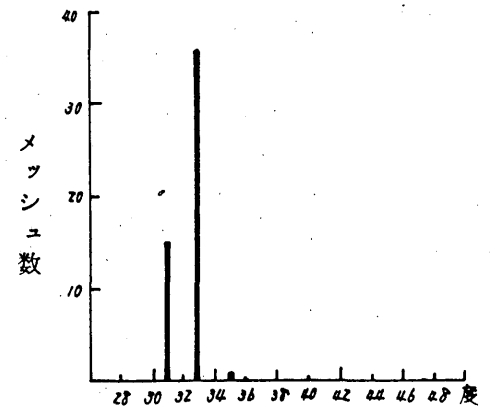
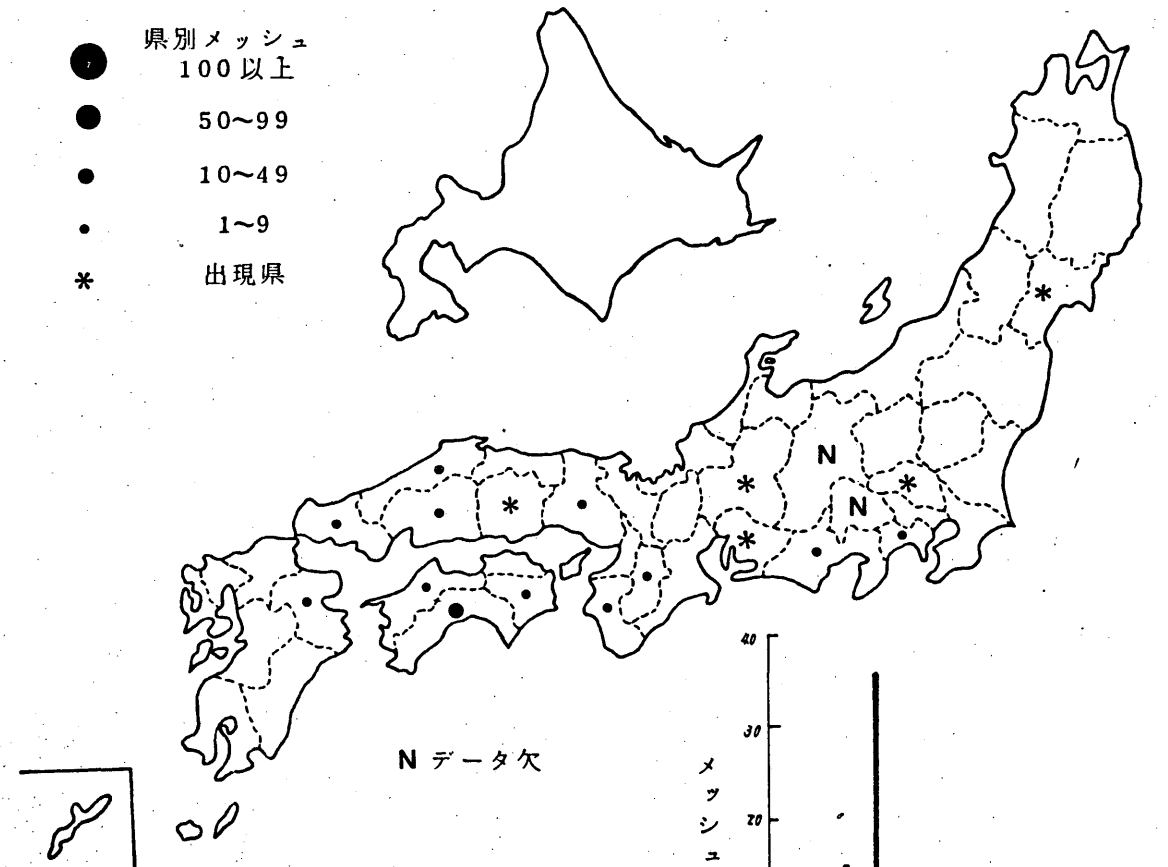
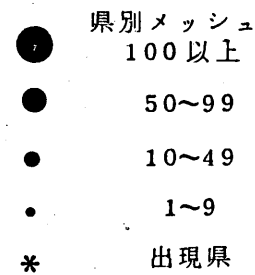
〈種組成〉 高木層にはウラジロガシが優占するがアカガシ、ツクバネガシなどが混生することもある。急傾斜地や岩角地ではモミ、ツガなどの常緑針葉樹が混生することも多い。亜高木層にはヤブツバキ、サカキ、ヒカキなどヤブツバキクラスの種が生育し、低木層にはこれらの幼樹やウラジロガシ、アカガシ、ツクバネガシなどの幼樹がみられる。草本層には、ヤブコウジ、ベニシジ、シロヒゲ、テカカスラなど常緑植物が多い。

〈群落の特徴〉 ヤブツバキクラス域上部の気候的極相林のひとつと考えられる。分布域が広く、下限ではシイ林の構成種を、下限ではブナ林の構成種をまじえ、また急傾斜地ではモミ、ツガなどを混生するなど、その性格は気候条件、土地条件により多様である。

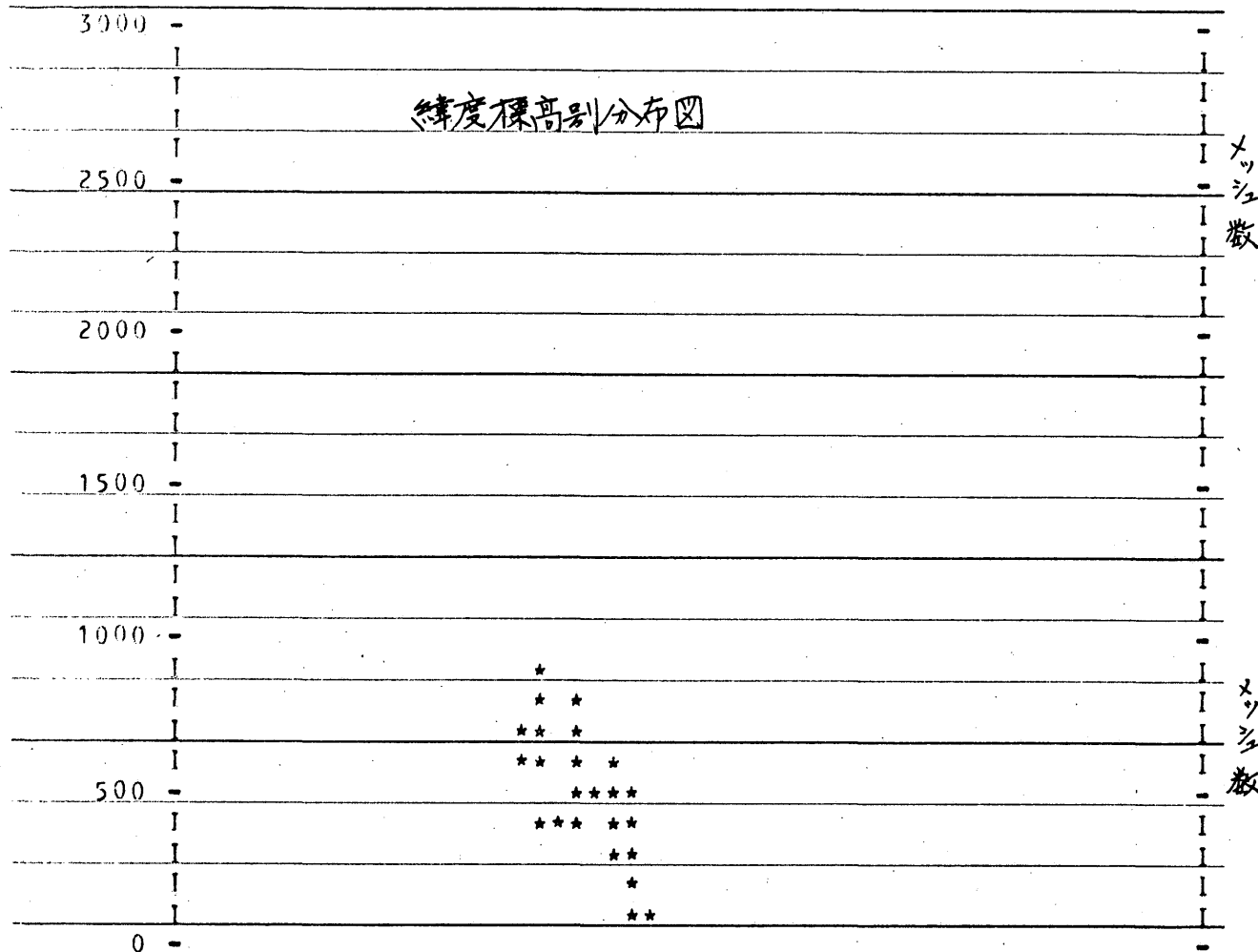
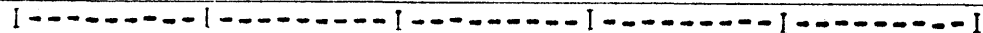
〈分布〉 日本の太平洋側の地域を中心に分布がみられるが、中国、四国地方にも多い。この地方ではほぼ海拔300~900mに分布している。

〈その他〉 鈴木 和夫(1949)は、ウラジロガシ-サカキ群集を報告し、その後各地で用いられている。宮脇ら(1971)では、この一部をモミ-シキミ群集に含め、菅沼(1963)でウラジロガシ-サカキ群集のイヌギ群集と区別したものを、イヌギ-ウラジロガシ群集として独立させている。大分のサカキ-ウラジロガシ群集はイヌギを多く含み、イヌギ群集に同定されている。

\*60400 サカキ-ウラジロガシ群集

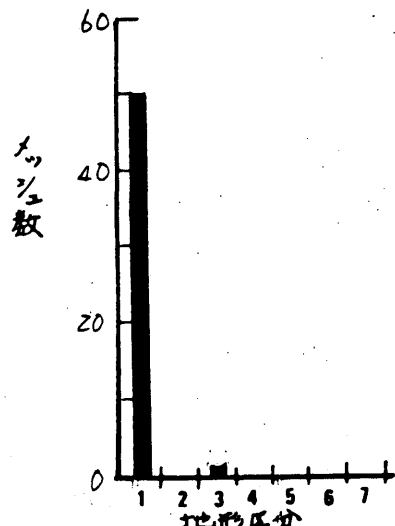


コード	群落名	メッシュ数	出現県
60400A	サカキ-ウラジロガシ群集	33	宮城、神奈川、岐阜、静岡、愛知、兵庫、奈良、和歌山、島根、岡山、広島、山口、徳島、愛媛
60400B	ウラジロガシ-サカキ群集	19	埼玉、高知、大分
	計	52	



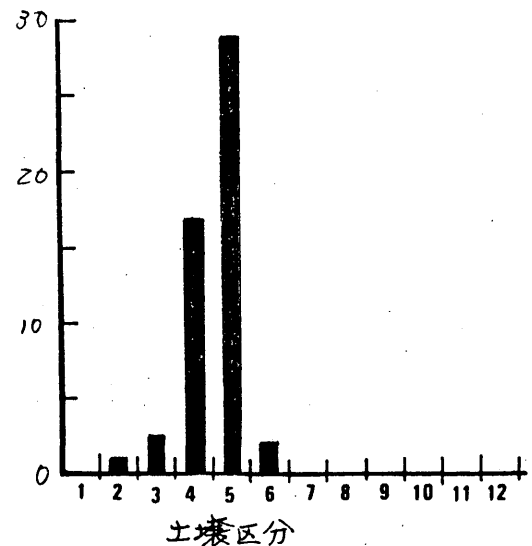
メッシュ数

メッシュ数



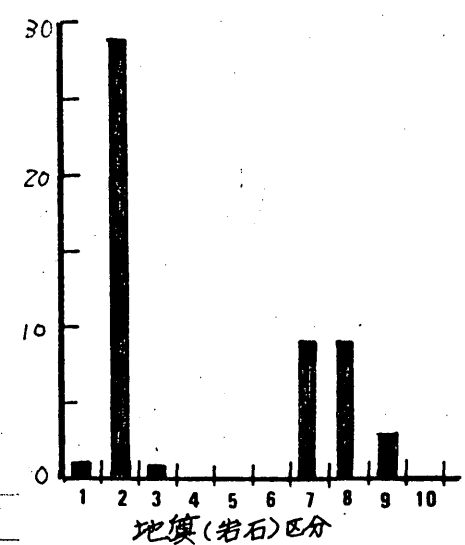
地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



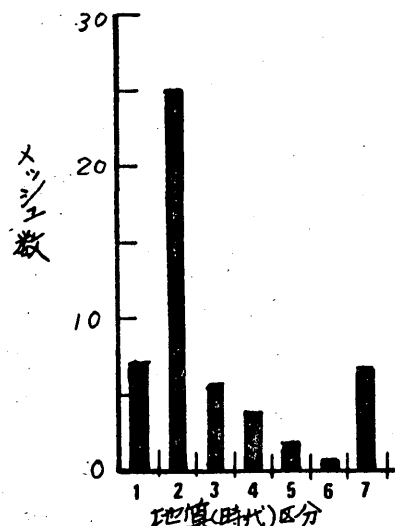
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老成土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

イヌノキ-ウラジロガシ群集

Distylio-Cyclobalanopsietum

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 九州地方の比較的気温や空中湿度の高いヤブツバキクラス域上部に成立している。内陸山地の斜面や尾根部に生育し、溪流沿いにもみられる。

〈種組成〉 高木層にはイヌノキ、ウラジロガシ、アカガシなどが優占し、ところによっては、ホソバダブ、スダジイ、モミなどが混生することもある。亜高木層から低木層にかけてはヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、シキミ、ハイノキなどの常緑樹が多く生育する。草本層は貧弱であることが多いが、ホソバカナワラビ、コバノカナワラビなどの常緑性のシダが繁茂しているものもある。

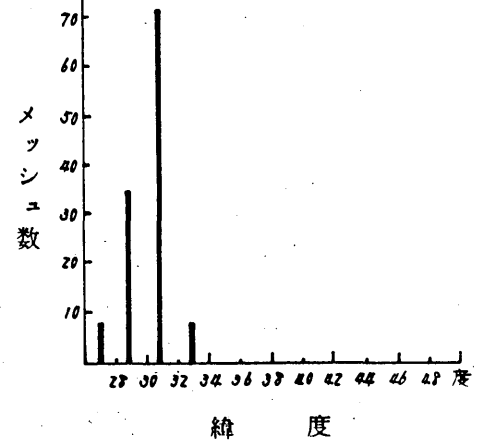
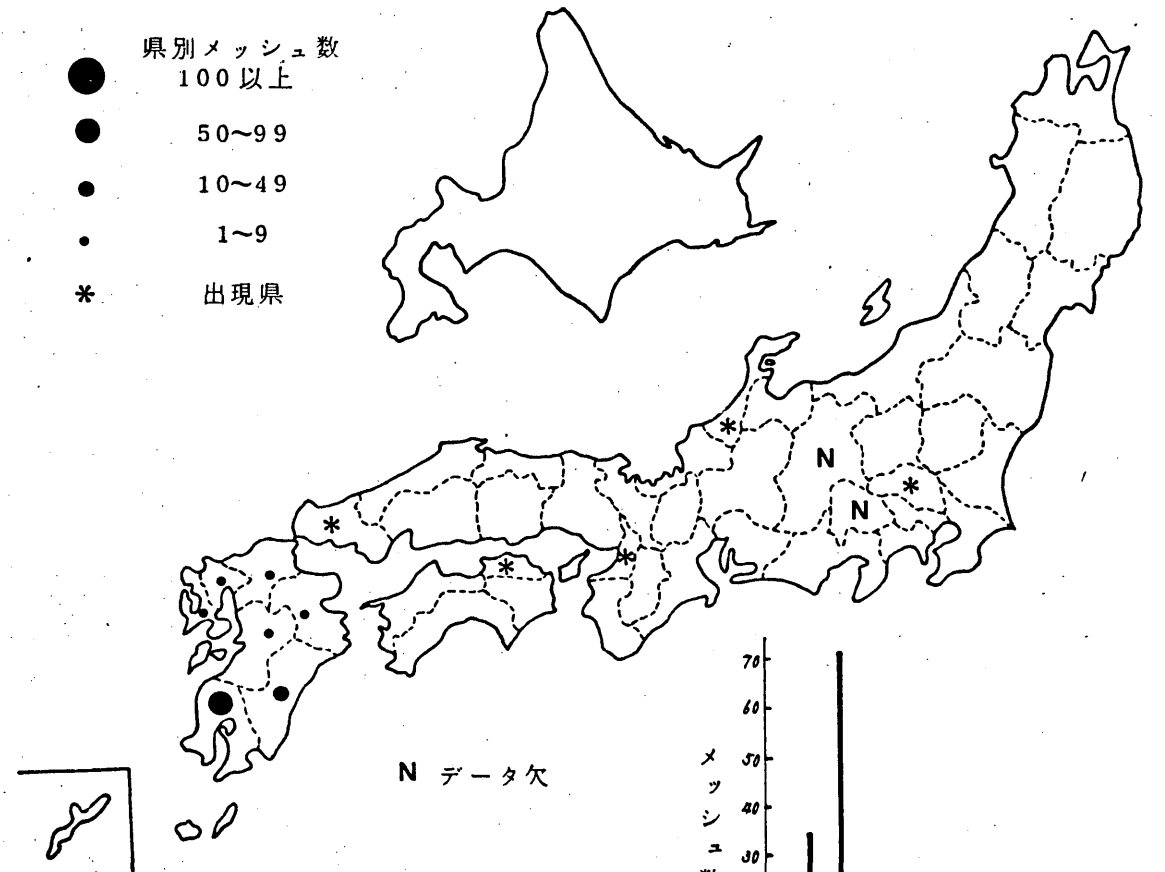
〈群落の特徴〉 ヤブツバキクラス域上部の気候的極相林のひとつで、サカキ-ウラジロガシ群集に対応して九州地方を中心にみられるものと考えられる。土壌の浅い地域では、モミツガなどの針葉樹が優占し、モミ-シキミ群集や、ハイノキ-ツガ群集におきかわる。宮脇ら(1971)では、標徴種および区別種としてイヌノキ、ホソバダブ、バリバリノキ、ハイノキ、サンゴシ、キジョフ、ハマクサギがあげられている。

〈分布〉 主として九州地方に分布する。海拔ではほぼ500~900mの地域に多く、溪流沿いなどではやや下り下降する。

〈その他〉 九州地方においてイヌノキを多く有する林分は、鈴木(1951)に大隅半島のものがイヌノキ-シキミ群集として報告されており、これは菅沼(1963)ではウラジロガシ-サカキ群集のイヌノキ亜群集とされた。宮脇ら(1971)では、これをイヌノキ-ウラジロガシ群集として独立させるという見解が示されている。

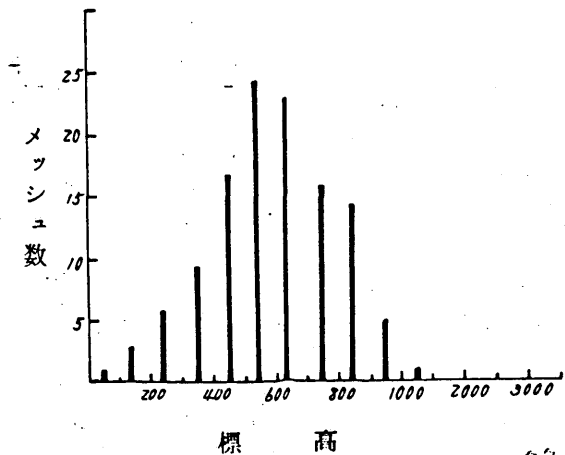
\*60401 イヌノキ-ウラジロガシ群集

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

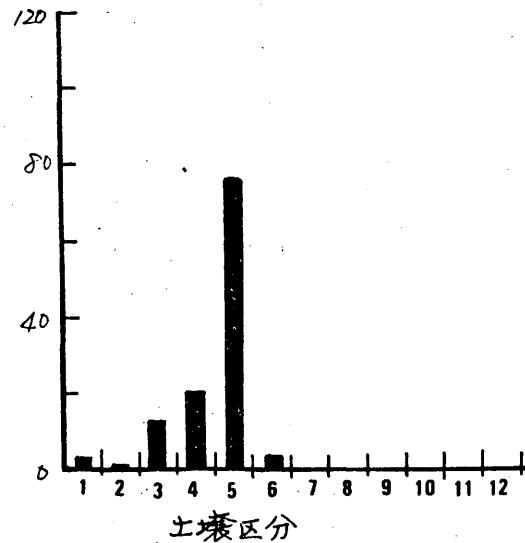
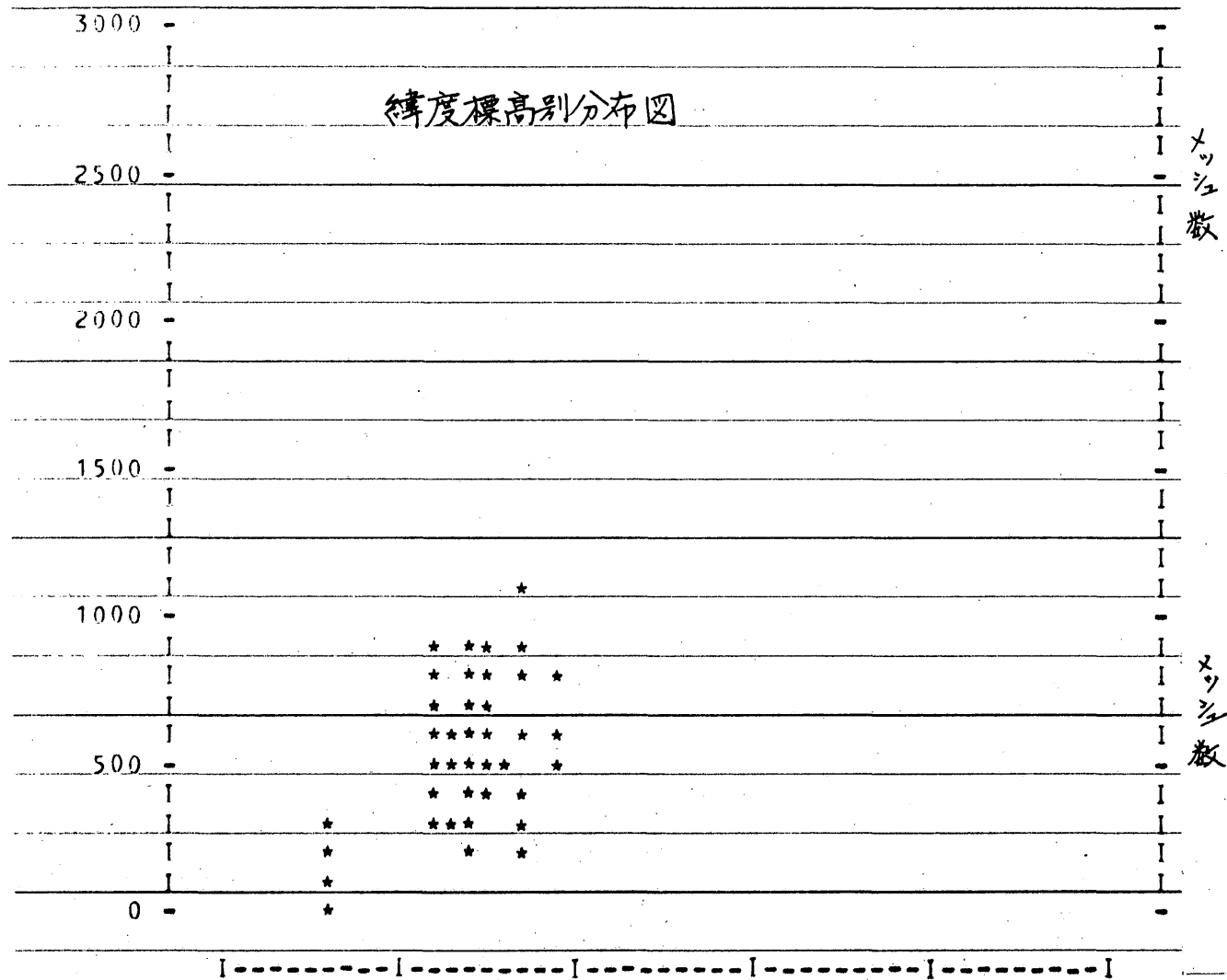


コード	群落名	メッシュ数	出現県
60401A	イヌノキ-ウラジロガシ群集	103	大阪, 山口, 福岡, 長崎, 熊本, 宮崎, 鹿児島*
60401B	アカガシ群落	0	埼玉, 石川, 香川
60404C	アカガシ-ミヤマシキミ群集	16	福岡*, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 鹿児島
	計	119	

\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより、群落

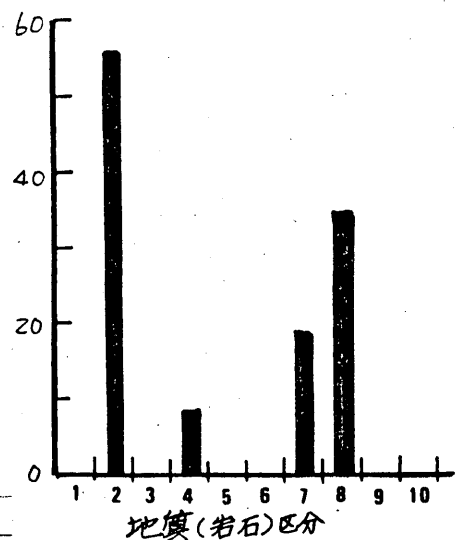


緯度標高別分布図



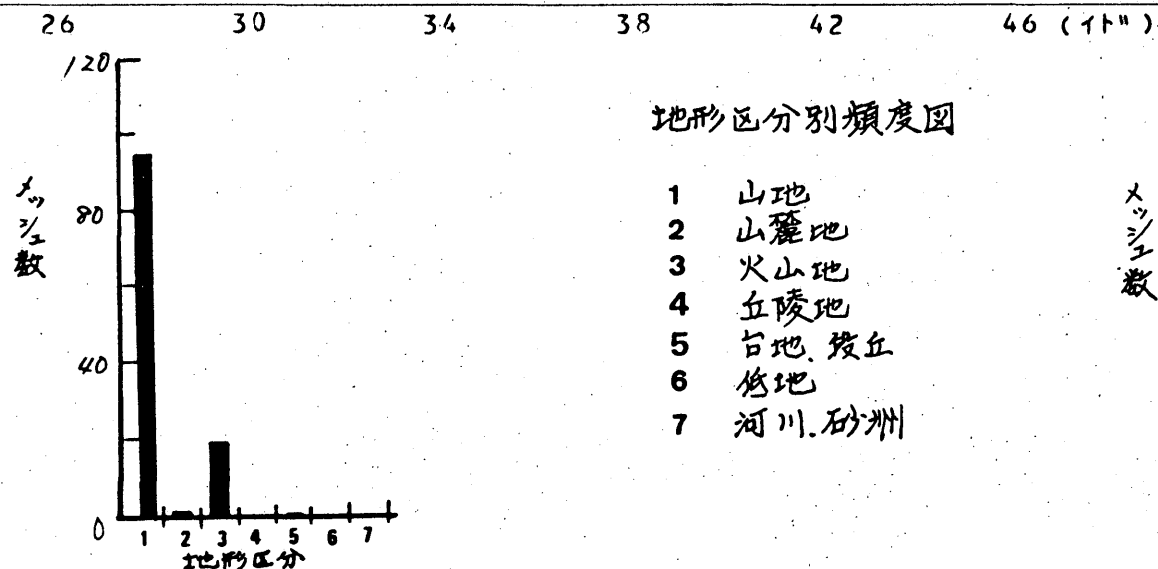
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他



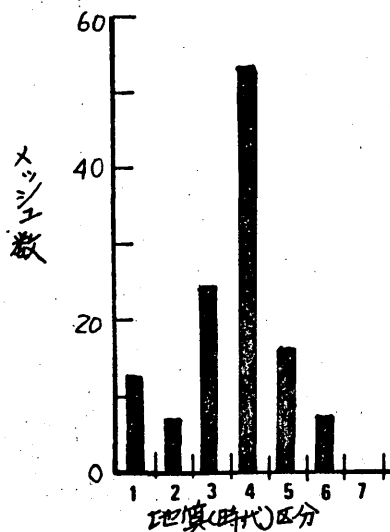
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩)
- 7 火山性岩石 (安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

ケヤキ群落 Zelkava serrata community

〈相観〉 落葉広葉樹の高木林

〈生育地〉 ヤブツバキクラス域の溪谷沿いにみられる。岩の露出したところや崖錯上に多く生育しているが、匍竹エが堆積した斜面などにもみられる。また、能登半島や佐渡では風衝を受ける臨海斜面に発達している。

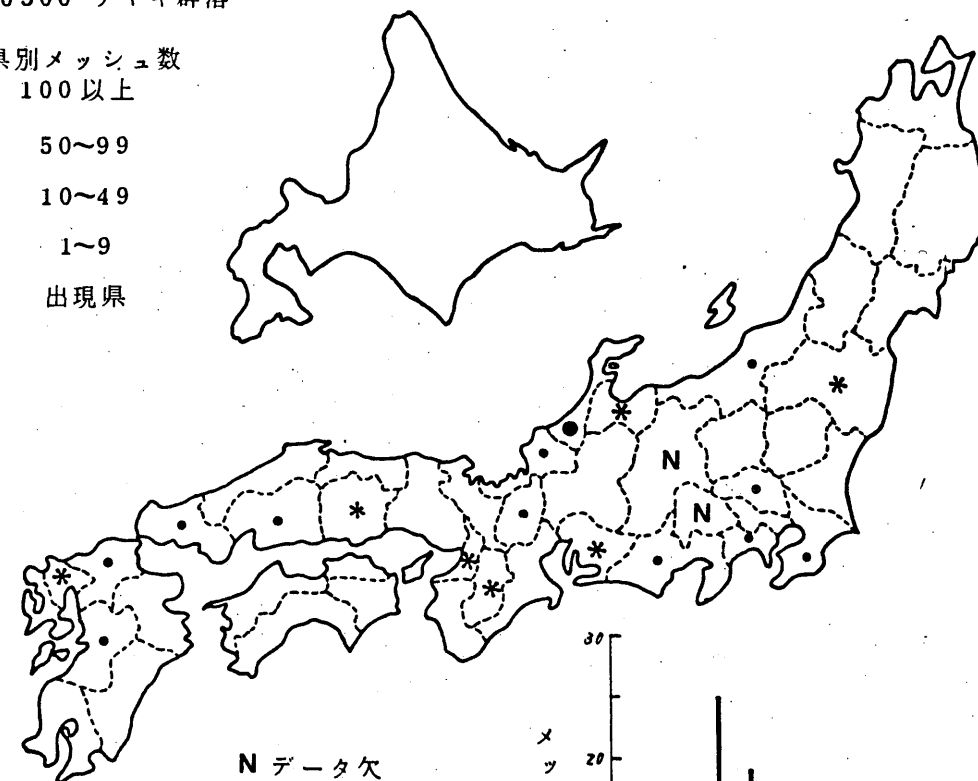
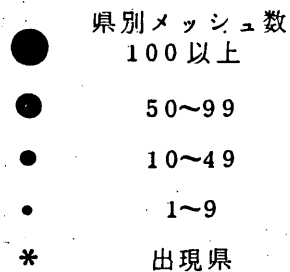
〈種組成〉 高木層にはケヤキが優占し、イタカエデ、ムクキ、エキなどが混生することもある。亜高木層、低木層の構成種は地域によりさまざまであるが、おおむね落葉広葉樹が多い。東北、北陸地方ではカエデ類が多く、日本海側の地域ではヒメアオキ、ヤブガヤ、オバクロモジなど特徴的な種が生育している。九州地方ではヤブツバキ、ホソバダ、ネズミモチ、シロタモなどの常緑樹種も多くみられる。草本層の構成種は豊富で、湿性地进行を好む植物が多く生育し、シダ類も多くみられる。

〈群落特徴〉 ケヤキ林は、ヤブツバキクラス域からブナクラス域まで広く生育し、各地からさまざまな群落が発見されているが、組成的には類似しており連続性がみられる。ここではヤブツバキクラス域のケヤキ林をとりしたが、構成種には落葉広葉樹種が多い。

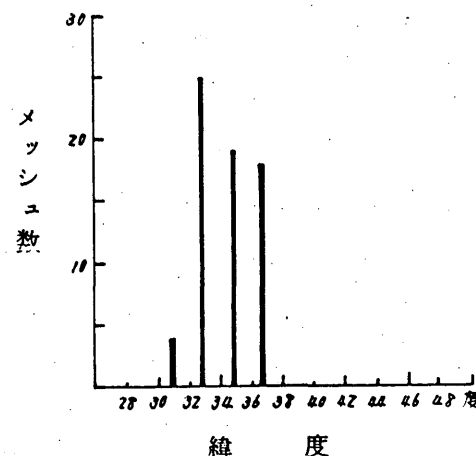
〈分布〉 東北から九州まで広く分布する。

〈その他〉 宮脇(1978)ではヤブツバキクラスに属するものとして、イロハモジジ-ケヤキ群集を、ブナクラスに属するものとして、ヤブガヤ-ケヤキ群集、ヒメウツバミツウ-ケヤキ群集、ケンボクシ-ケヤキ群集、アブラハシ-ケヤキ群集、コクリキ-ケヤキ群集を示している。

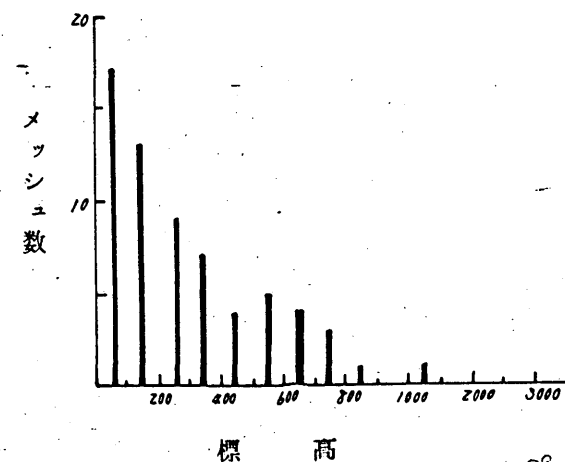
\*60500 ケヤキ群落



N データ欠

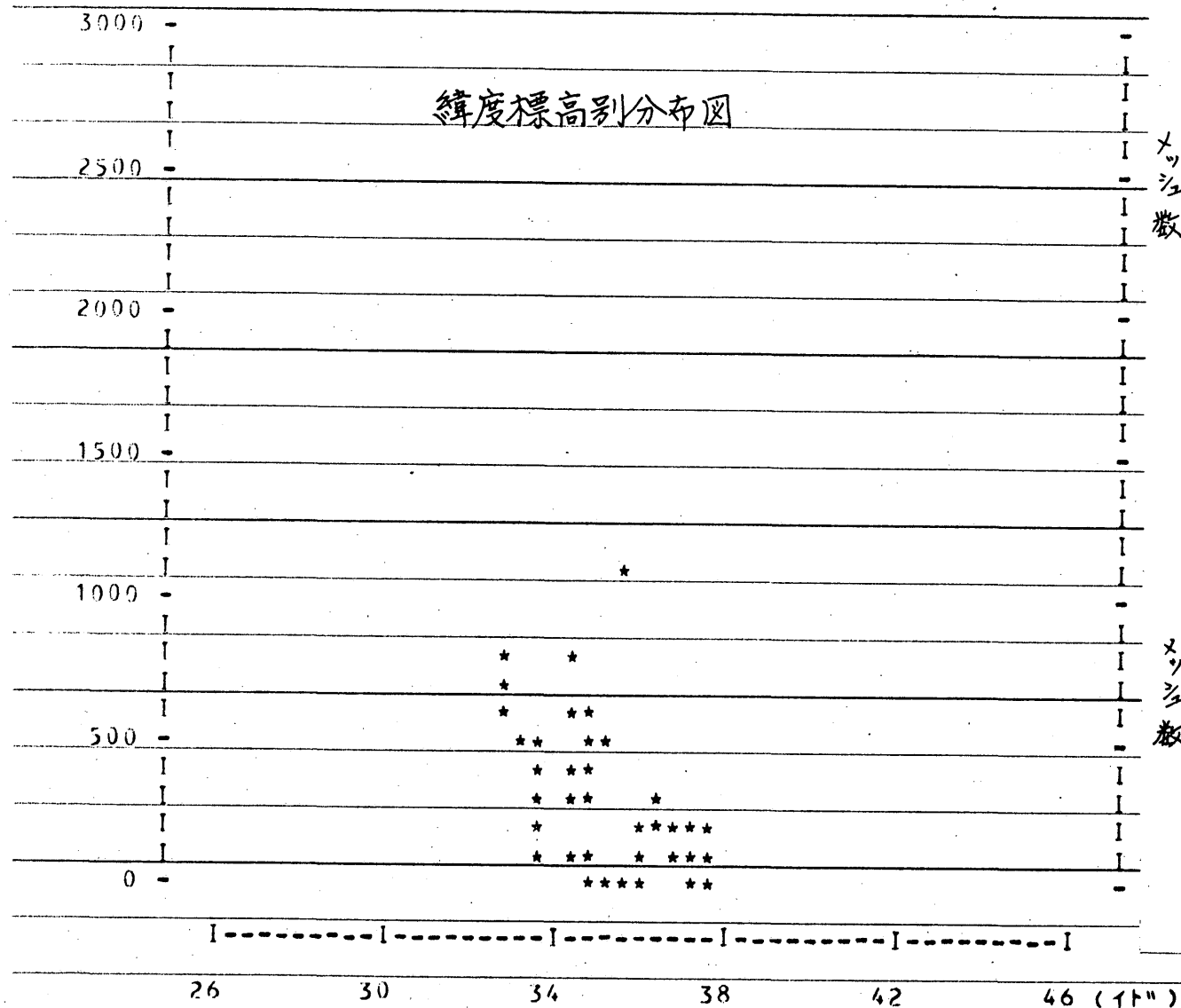


コード	群落名	メッシュ数	出現県
60500A	ケヤキ群落	37	福島, 新潟, 富山, 石川, 福井, 奈良, 岡山, 広島, 山口, 佐賀
60501B	ケヤキ-イロハモジ群集	25	埼玉, 千葉, 神奈川, 静岡, 愛知, 大阪, 福岡, 熊本*
60500C	ケヤキ-ヤブガヤ群集	1	佐賀
60500D	ケヤキ-コウヤマワラビ群集	2	佐賀*
60500E	ムクキ-エキ群落	-	
60500F	エキ-ムクキ群落	1	山口
60500G	ケヤキ-ムクキ群落	0	佐賀
60500H	ヒメウツバミツウ-ケヤキ群集	0	熊本
	計	66	



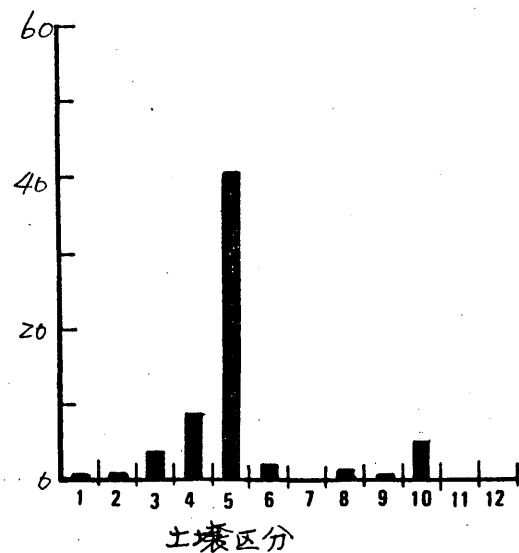
\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもととして2群落

緯度標高別分布図



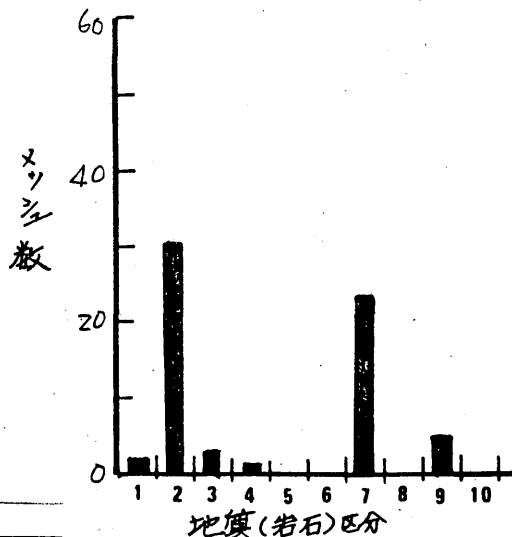
メッシュ数

土壌区分別頻度図



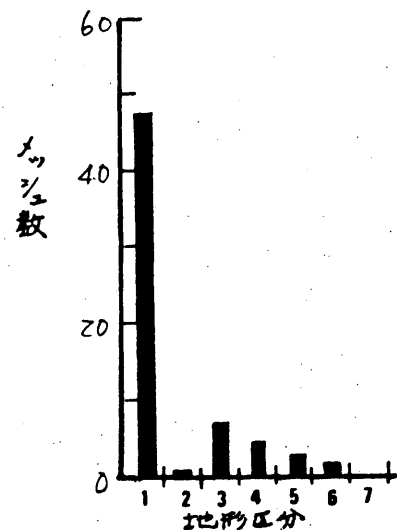
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



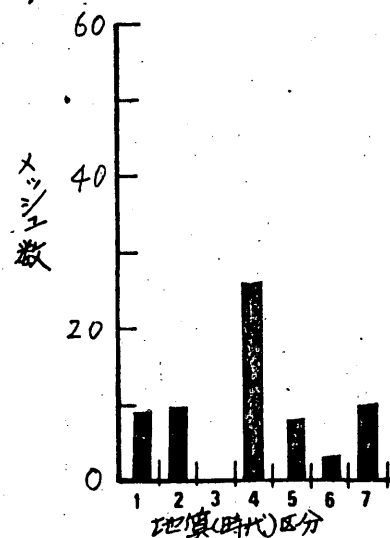
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他



サカキ-コジイ群集 *Cleyero-Castanopsietum cuspidatae*

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 海岸部からやや内陸の丘陵や低山にかけてみられる。土壌の未発達で乾性で貧乏な土地に多くみられるが、土壌の厚い富栄養地にも生育している。

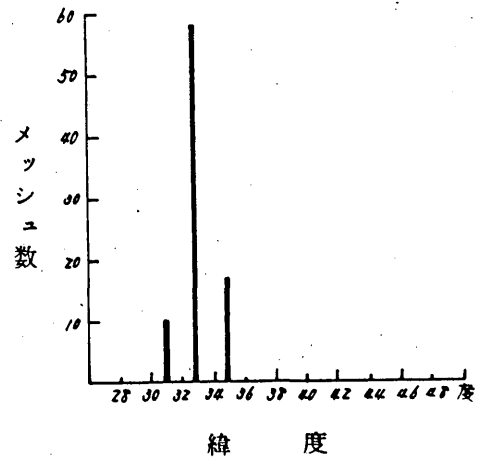
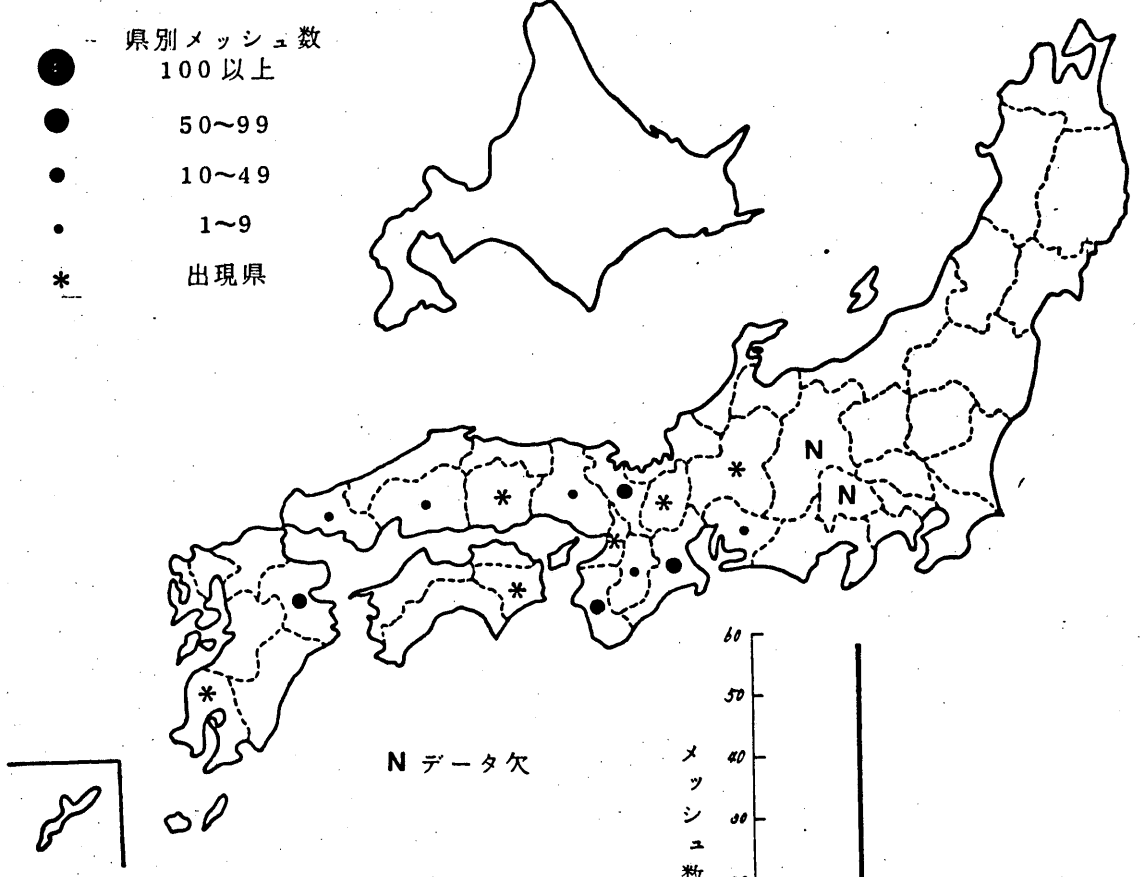
〈種組成〉 高木層にはコジイが優占し、他にタブキ、スタジイ、アカガシなどがみられる。亜高木層にはサカキ、ヤブツバキ、カメモチ、クロバヤシ、アヲカシなどが多く出現し、低木層にはアオキ、ネズミモチ、シヤンボク、サカキ、ハスセンリョウなどがみられる。草本層にはベニシダ、ヤブコウジの出現率が高く、キジノシダ、マンリョウ、ツレマンリョウなどもみられる。

〈群落の特徴〉 海岸部から低山にかけての気候的極相木のひとつと考えられる。標徴種および区分種としては、コジイ、シヤンボク、ソゴ(以上大阪府)、タカハツメ、マンリョウ、アヲカシ、アラハシガク(以上愛知県)などがあげられているが、全体的には高木層におけるコジイの優占による特徴づけられる群落である。杜叢林として各地に残存林分がみられるが、小面積のものが多い。

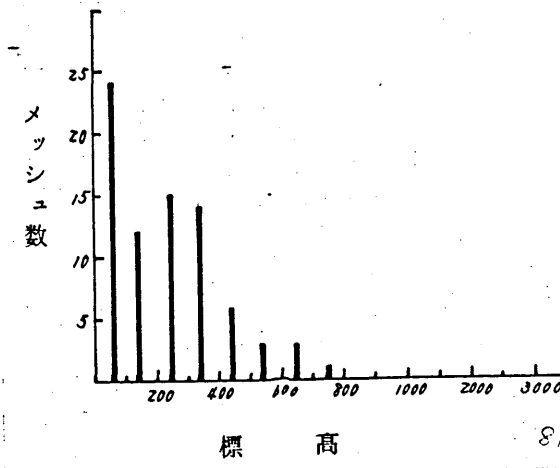
〈分布〉 西日本に分布するが特に関西地方で多くみられる。

\*61000 サカキ-コジイ群集

- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

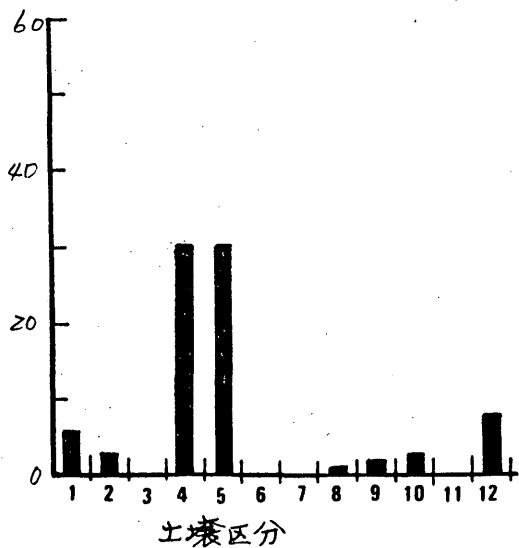
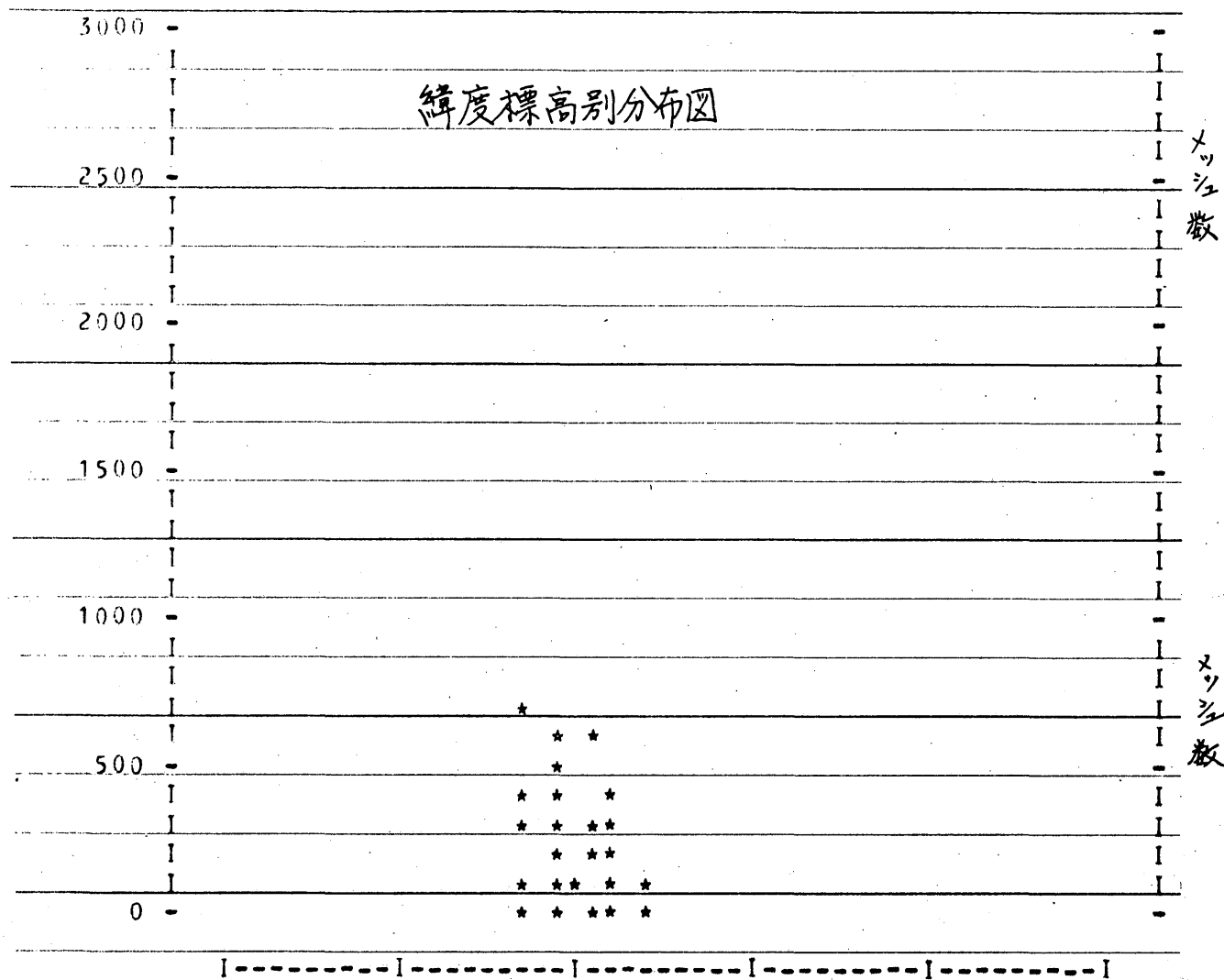


コード	群落名	メッシュ数	出現県
61000A	サカキ-コジイ群集	50	岐阜, 愛知, 京都, 奈良, 和歌山, 岡山, 広島, 山口, 徳島, 大分, 鹿児島
61000B	シーカマモキ群集	2	滋賀, 大阪, 兵庫
61000C	ツブライ(コジイ) ツブラジイ-サカキ群集	1	
61000D	シートキワカワソウ群集	5	兵庫*
61000E	ツブラジイ-サカキ群集	30	三重
61000F	サカキ-コジイ群落	0	
	計	87	



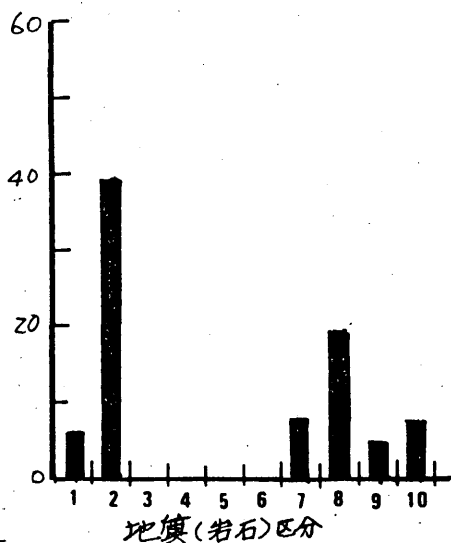
\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより群落

緯度標高別分布図



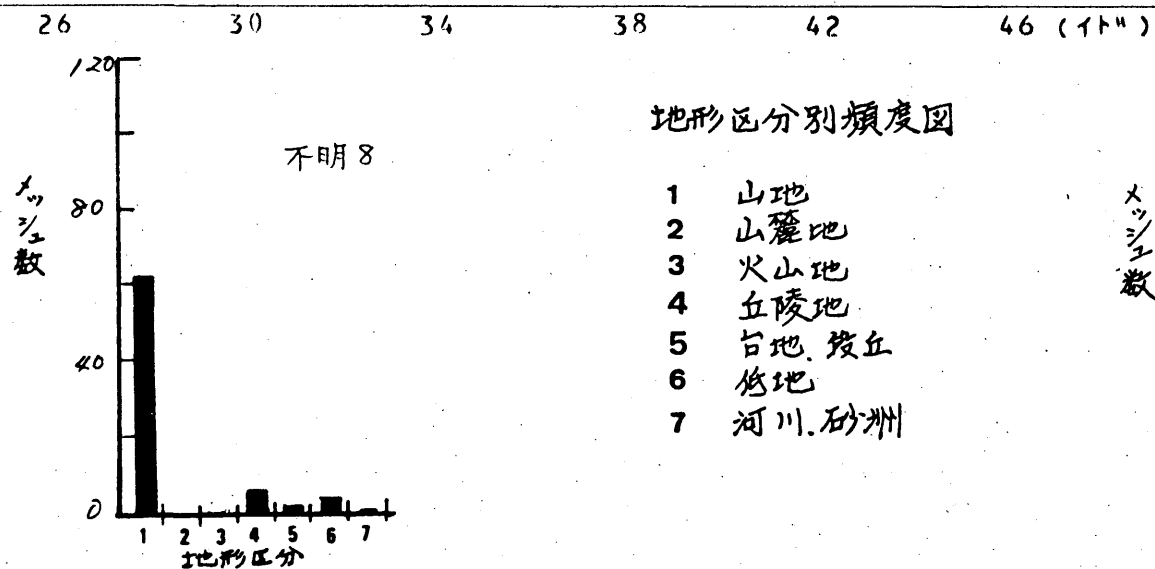
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

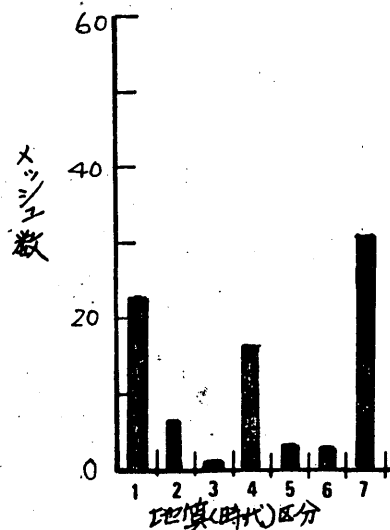
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

ヤブコウジースタジイ群集 *Ardisio-Castanopsietum sieboldii*

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 海岸からやや内陸にかけての、土壌の浅い、比較的乾性な地の斜面部や尾根部に成立している。

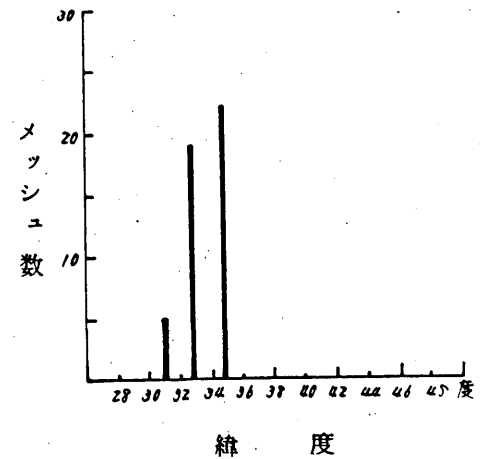
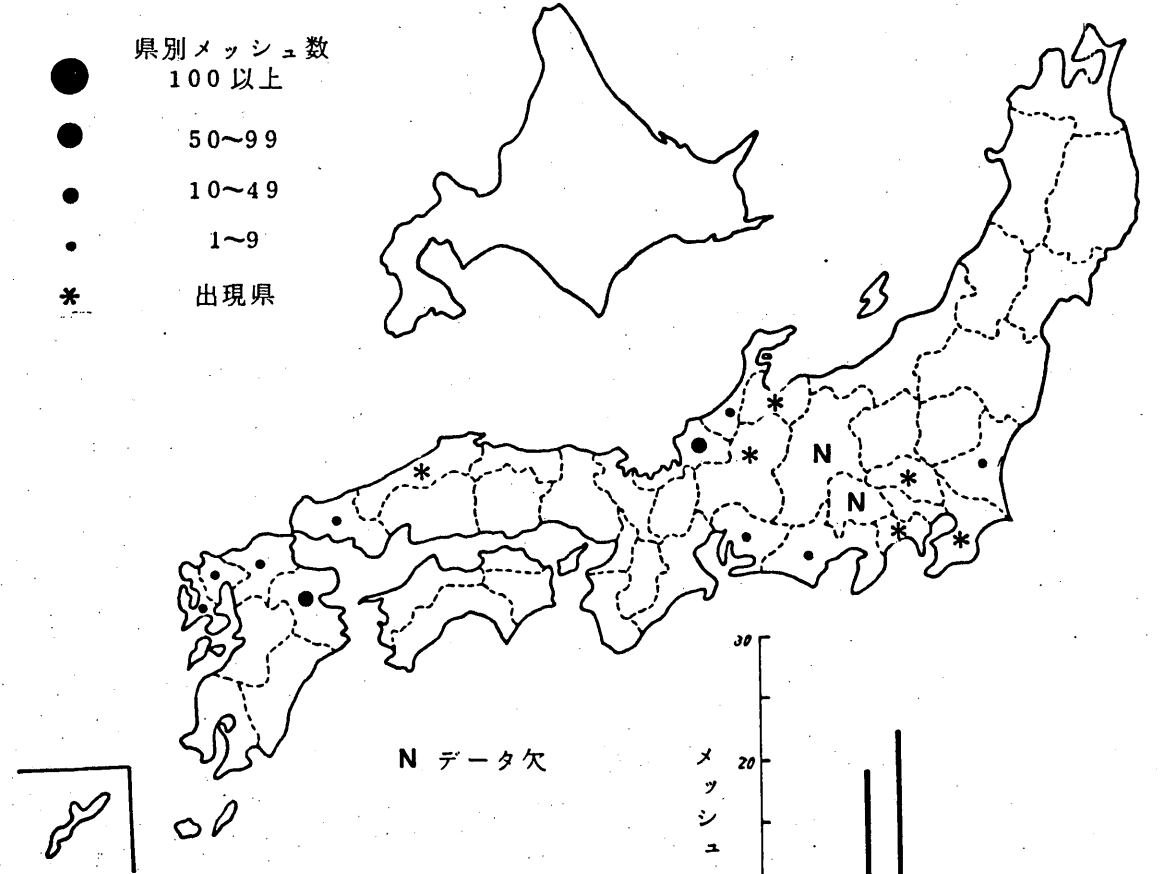
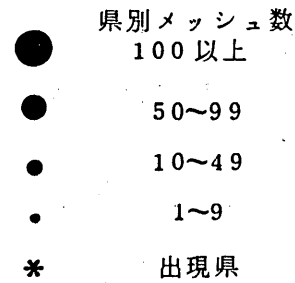
〈種組成〉 高木層にはスタジイが優占し、タリキ、ヤブニッケイ、アラカシ、アカガシなどが混生する。亜高木層にはヤブツバキ、モチノキ、ヒサカキなどが生育し、低木層にはヒサカキ、ネズミナ、アオキの出現率が高い。草本層にはヤブコウジ、ベニシダ、テリカカスラ、キツタヤブランなどの常緑植物が多く生育する。

〈群落の特徴〉 独自の標徴種や区分種をもたない種組成上からは特徴の少ない群集である。比較的乾性な地に生育するため、種組成は単純であることが多い。林内には常緑植物が多く生育している。

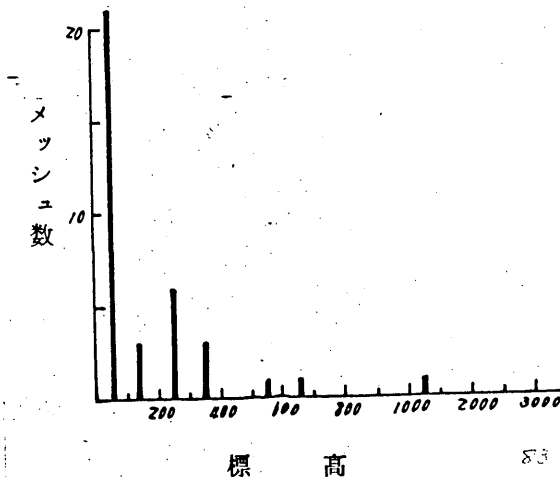
〈分布〉 関東から九州にかけて広く分布する。

〈その他〉 ヤブツバキクラスの気候的極相林としては、大きくわけるとタダ林、シイ林、カシ林があるが、海岸近くに分布するタダ林、内陸の低山地に分布するカシ林の中間的位置に分布するシイ林が最も広い面積にわたって成立している。シイ林にはスタジイ林とコジイ林があるが、コジイが伊豆半島以西、九州までの瀬戸内を含むおもに太平洋岸にしか分布しないのに対し、スタジイは福島県平戸付近と新潟県佐渡を北限として西表島まで分布している。ヤブコウジースタジイ群集はスタジイ林のうちでも最も広範にみられる群集で各地から報告されている。

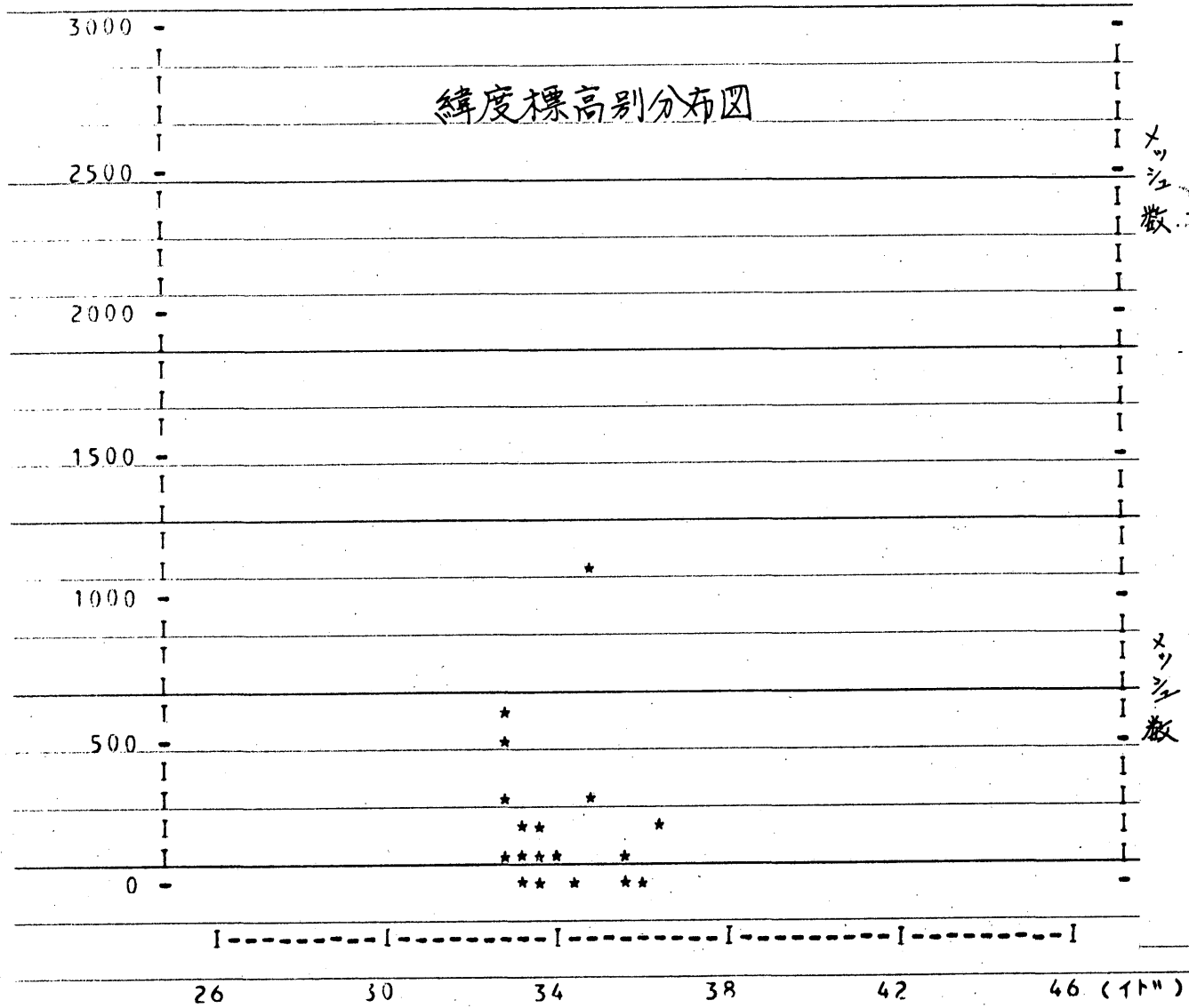
\*61301 ヤブコウジースタジイ群集



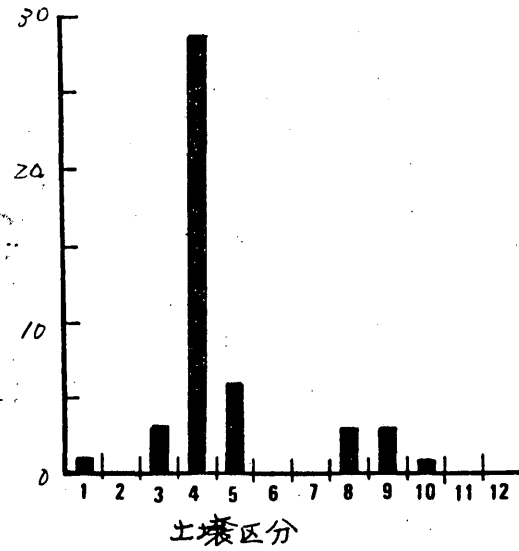
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61301A	ヤブコウジースタジイ群集	33	茨城, 神奈川, 富山, 石川, 福井, 静岡, 愛知, 島根, 山口, 福岡, 佐賀
61301B	スタジイヤブコウジ群集	15	埼玉, 千葉, 長崎, 大分
61301C	ヤブコウジースタジイ群落	0	岐阜
	計	48	



緯度標高別分布図

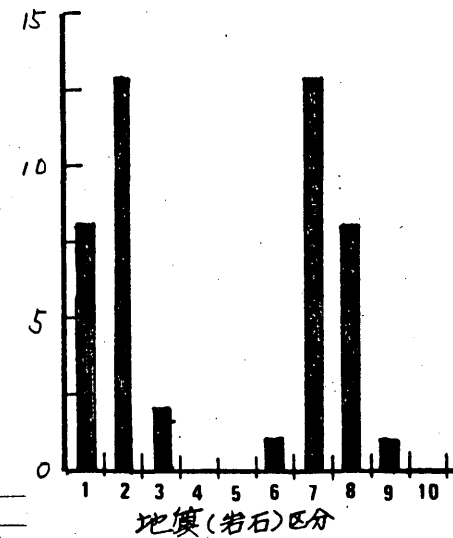


土壌区分別頻度図



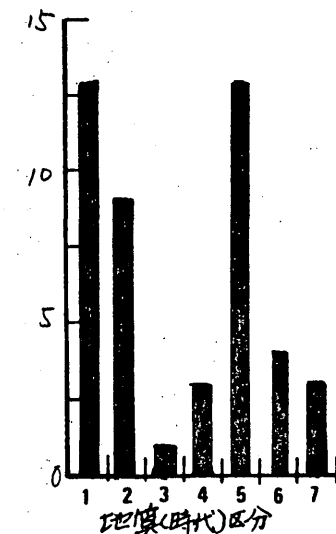
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



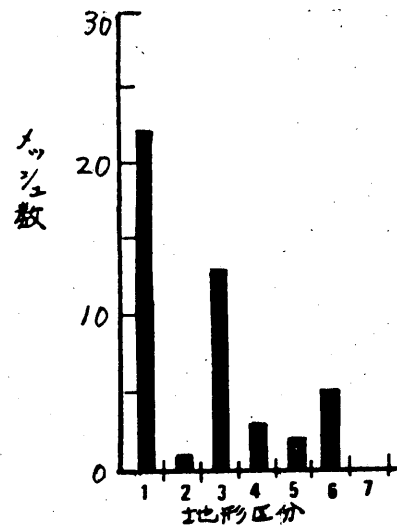
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

ミズバイ-スダジイ群集 *Symploco glauca-Castanopsisietum sieboldii*

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 温暖な地方の海岸に近い平地から丘陵にかけての適湿地に成立する。

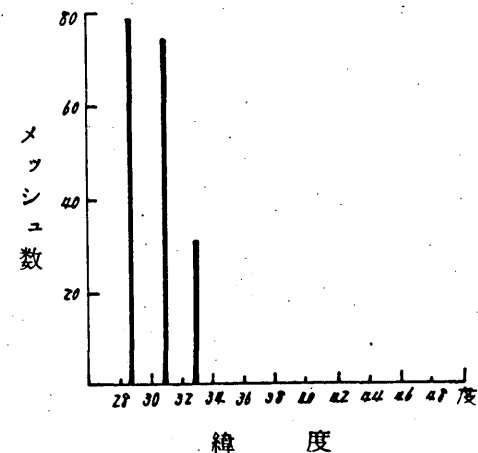
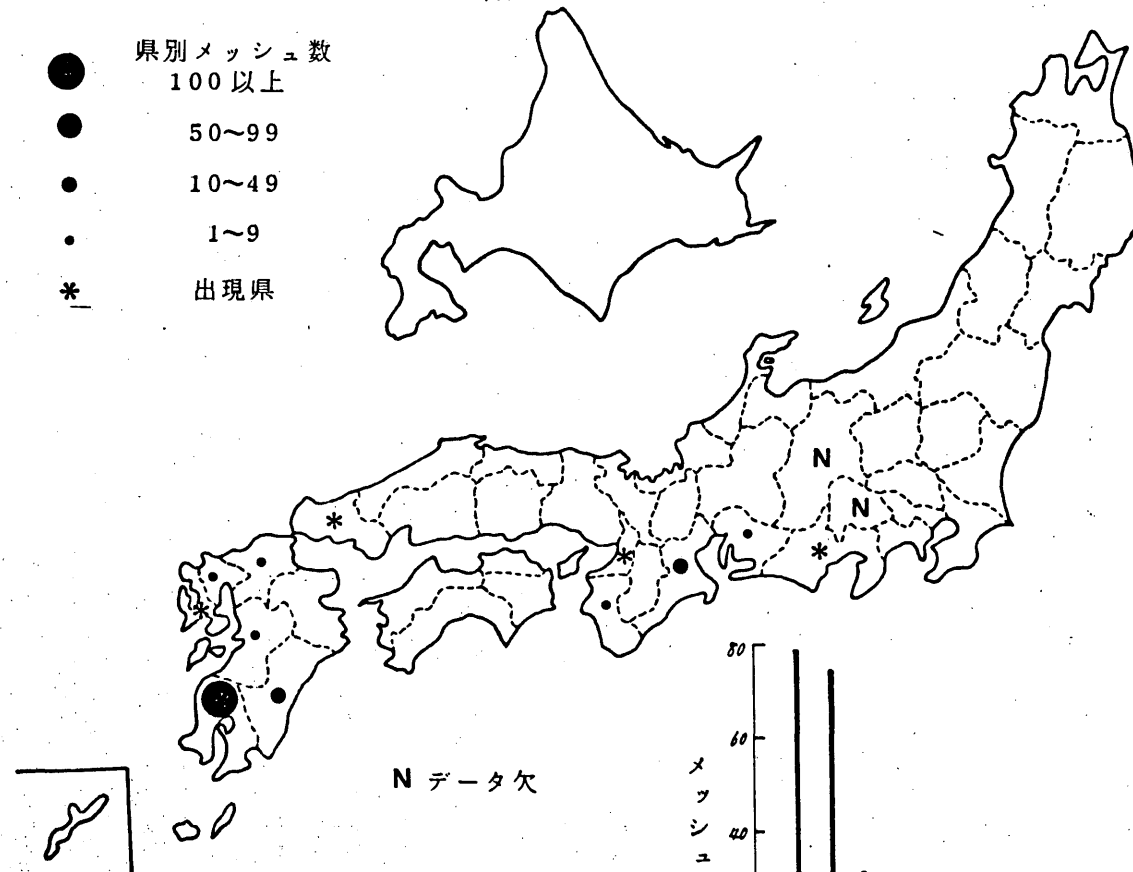
〈種組成〉 高木層には、スダジイが優占し、ときにコジイがスダジイにかわって優占することがある。亜高木層にはミズバイが高常在度で出現し、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、モッコクなどが生育する。低木層にはヒサカキ、タイミンタチバナ、ネズミモチ、ミズバイなどが生育し、草本層にはナイカカズラ、ヤブコウジ、ベニシタ、センリョウなどが生育している。

〈群落の特徴〉 オカクマノキ、ミズバイ、ヤマビワ、ヤマモモ、シラオノキなどを特徴種および区分種として宮脇ら(1971)によって新設された群集で、ここではタイミンタチバナ-スダジイ群集をも含むとされている。沖積地において社寺林として残されている例が多い。

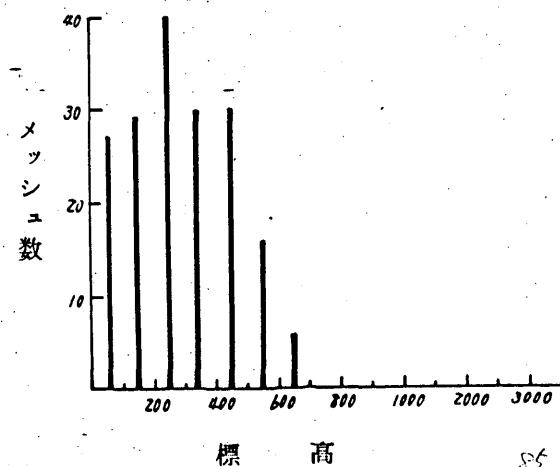
〈分布〉 静岡以西の太平洋側の地域を中心に分布がみられ、特に紀伊半島と九州に多くみられる。

\*61302 ミズバイ-スダジイ群集

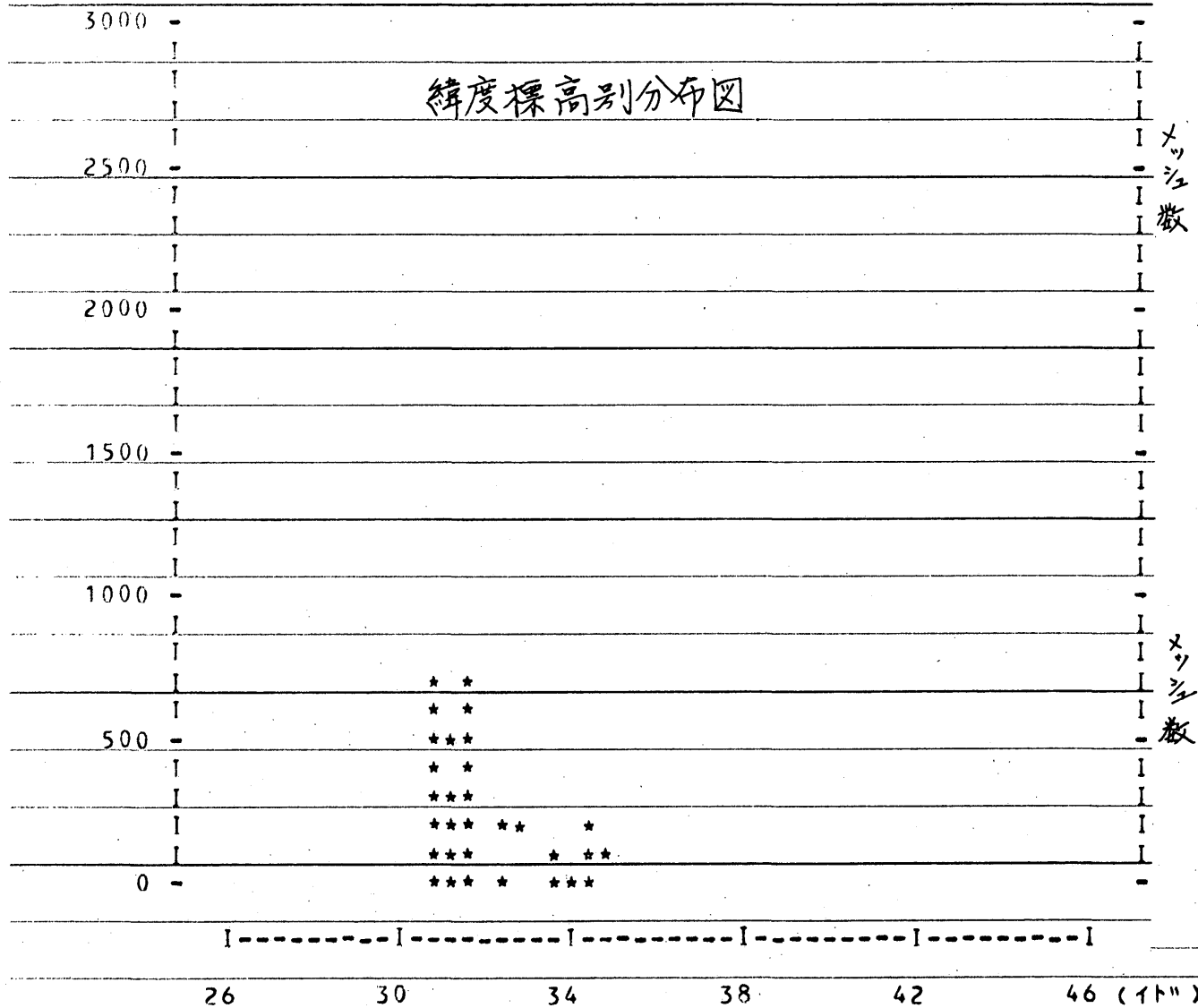
- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



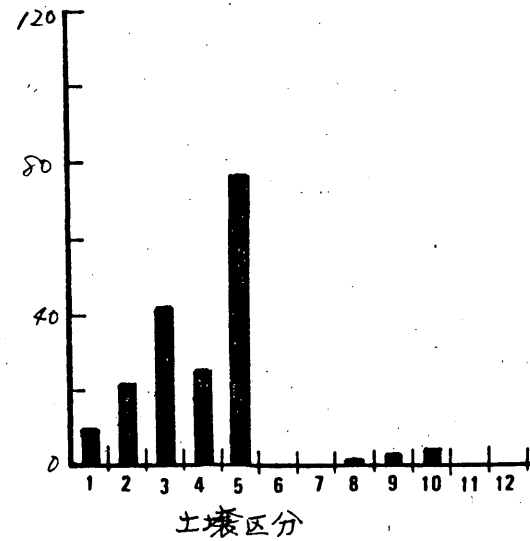
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61302A	ミズバイ-スダジイ群集	160	静岡, 愛知, 大阪, 和歌山, 山口, 福岡, 佐賀, 熊本, 宮崎, 鹿児島
61302B	スダジイ-ミズバイ群集	24	三重
61302C	スダジイ-タイミンタチバナ群集	-	岐阜, 大分
	計	184	



緯度標高別分布図

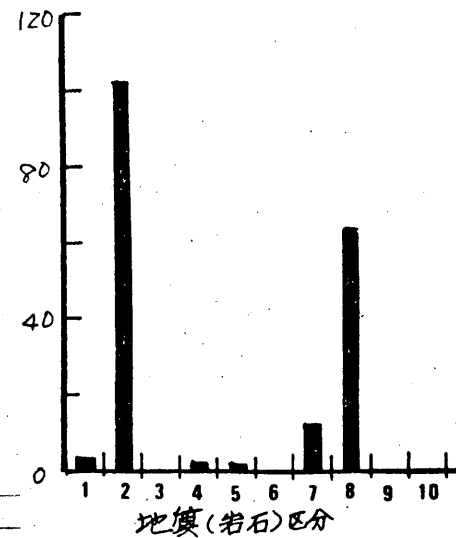


土壌区分別頻度図



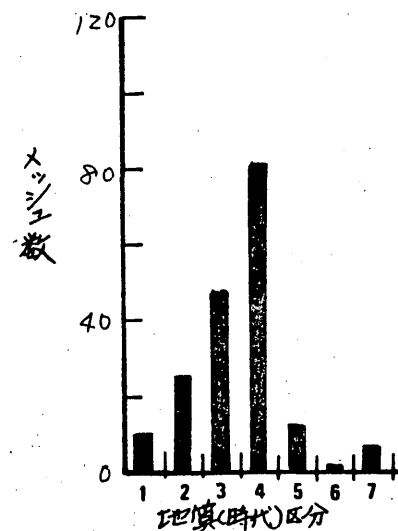
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



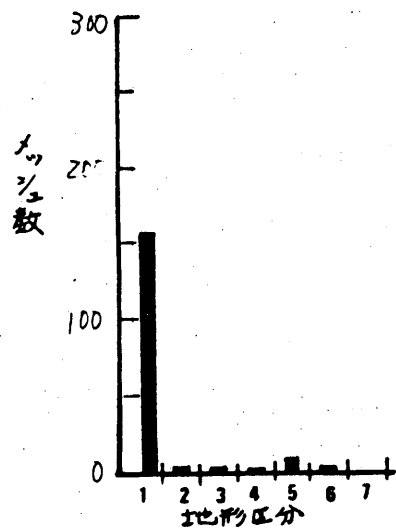
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州